森下保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	森下保育園
施設所在地	〒135-0004　江東区森下3丁目14番6号
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然物の動き　「どこまで転がるか・どんな風に転がるか～動きの探求～」

＜テーマの設定理由＞

普段の遊びの中で、スロープを作ってトミカを走らせることを楽しんでいるこどもたち。トミカだけでなく、「他のものも転がるかな？」と人形や積み木を転がしてみたり、園庭でスロープを作った時にはボールを転がしたりと遊びが発展していっているため、他にどんなものを転がすとさらに興味が深まっていくのか、自然物などを提供することで探究活動に繋げていきたいと考えた。

２．活動スケジュール

①慣れ親しんだクラス内で、スロープを作り様々な物を転がしてみよう。
②夏の遊びの中で水や氷などを転がしてみよう
③ホールの広い空間の中で慣れ親しんだ物を転がしてみよう
④転がす物に色をつけて道筋を辿ってみよう
⑤転がす物をカプセルに入れて物の動きを追ってみよう
⑥科学博物館で巨大ピタゴラ装置を体験する

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・こどもたちの言葉を聞き取り、興味関心が引き出せそうな物を多種類用意した。こどもたちの姿や様子から使用する物は足し引きしていった。
・活動を振り返ることができるように、導入で振り返りの時間をしっかりと取っていった。
・活動に集中できるよう、使用する道具の色合いや配置なども統一感のあるものを意識した。

森下保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①慣れ親しんだクラス内で自分たちでスロープを作り、いろいろなものを転がしてみる。
　また、転がった先での音の変化から物の動きを探ってみる。
②夏の遊びの中で氷や水などをスロープに流して自然物の動きを探求していく。
③ホールの広い空間の中でどのようにスロープを組み立てたら遠くまで転がっていくのか探求を深めていく。
④ホール一面に模造紙を敷き、転がす物に絵の具をつけて距離の違いや道筋を可視化することでより探求を深めていく。
⑤様々な物をカプセルに入れ転がし、転がる物の動きを追ってみる。
⑥科学博物館で巨大ピタゴラ装置を体験し、物の動きを体感する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

①G毎で初めのスロープ作りや進め方が違かったが、友達の転がすものも意識しながら転がすことを楽しんでいた。「くるくるまわってる」「押してみたら転がった」など転がり方の違いや音の大小に気付いていた。
②上手く転がらないもの（氷や宝石玩具）は上から水を流してみていた。水と一緒に流し、「ウォータースライダーみたい」と自分の経験を思い出していた。
③同じ物(ふわふわボール)を同じ状況で転がしてみると、転がり方に変化があった。「同じものなのになんで違うんだろう」と疑問を言葉にしてその後も繰り返し試していた。
④転がった物を追いかけて、ボールがグルグル回ると体も一緒に回っていた。色をつけて転がすことでできた道筋や模様を発見し、楽しんでいた。転がしてできた跡を見て、ことばはなくても嬉しそうに担任保育士を見たり、友達の動きや道筋の面白さを共有していた。
⑤平らの地面で転がした時の様子と、坂道を転がした時の様子の変化(スピードや距離)に気付いていた。友達と一斉に転がして速さの違いを楽しんでいた。中に入れるものによっての転がり方、転がるときに出る音にも気づいていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・最初の頃はこどもたちの探求する気持ちを大切にしたいと思って、声を掛けず見守っていったが、適切に声を掛けて良いということを知った。保育者が積極的に声を掛けていくことで、こどもたちのイメージが膨らみ探求心や興味を広げることができ、より一層探求活動が深まっていることに気づいた。
・一人ひとりが探求していることは違っても、友達と一緒に活動して、見たり聞いたりすることで共感しながら協同的・探求的学びが深まっていることを感じた。

白河保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	白河保育園
施設所在地	江東区白河1-7-1
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

構成遊び

＜テーマの設定理由＞

昨年度、幼児クラスを中心にドミノや街づくり（積み木、ブロックを使用）など「つくる」ことへの興味の広がりを経験したことが、今年度、こどもたちの姿に表れている。積み木、ブロックの他に様々な素材に触れたり使用することで探究心が芽生え、「つくる」あそびがさらに広がり、発展、展開できるのではないかと考え、今年度も引き続きのテーマとした。

２．活動スケジュール

第１回すくわくプログラム　テーマ：「自由」　１０月３１日
第２回すくわくプログラム　テーマ：「自由」　１１月１４日
第３,4回すくわくプログラム　テーマ：「自由」　１２月　５日　１２月１９日
第５回すくわくプログラム　テーマ：「自由」　１月　９日
第６回すくわくプログラム　テーマ：「自由」　２月１３日
第７回すくわくプログラム　テーマ：「街」　２月２０日
第８回すくわくプログラム　テーマ：「街」　３月１９日

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・積み木…レンガ積み木、アクリル積み木（クリア、マット）、キューブ積み木、ドミノ　等
・ミニドール　・動物　・LaQ　・レゴブロック　等

白河保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

3,4,5歳の異年齢グループで行い、各グループ6人編成で取り組んだ。
主に白木の積み木を使い、こどもたちがどのようにイメージを広げていくのか声をよく聞き、そこにこどもたちの声から出てきたミニドールや動物を取り入れた。
じっくり取り組むことができるよう１日１グループずつ行い、場所は広々使えるようホールを使用した。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

各グループまずは作りたい物を発表してもらい、１人ひとりの声をよく聞いてから始めた。
自分たちのイメージを引き出しその後活動に向かえるようにした。異年齢で行っていたため5歳児の構成力への憧れが3,4歳児の意欲を引き出し、教え合ったり助け合い共同でひとつの作品を作りあげる姿も見られた。保育士はこどもたちの発想を形にするための最小限の援助を心がけ見守りと共感的な言葉かけを主体とすることで、こどもたちが主体となって遊びを広げていけるようサポートした。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

すくわくの時間に留まらず、各クラスに戻ってからも遊びを再現・継続しようとする意欲の継続が見られた。異年齢で行うことにより、刺激を受けて遊びが広がっていた。少人数ずつ行うことで保育士が一人ひとりの呟きや細かな行動をしっかりとらえ、適切は関わりができたように思う。また、十分な遊具の量があることでこどもたちが次々に湧き出るイメージを即座に形にする没入感ある遊びへと繋がった。遊具の充実と見守りの質が主体的な構成遊びを支える重要な要素となったように思う。

深川一丁目保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	深川一丁目保育園
施設所在地	江東区深川1-6-15-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

かたち

＜テーマの設定理由＞

周りをよく見ると身の回りにあふれている様々な「かたち」をこども達にはどのように見えているのだろう、どんなふうに表現するのだろうという思いと新たな発見を期待して設定した

２．活動スケジュール

10月　21日　　５歳児　かたちの表現（紙、個人）
12月　22日　　５歳児　かたちの表現（紙、グループ）
1月　21日　　４歳児　かたちの表現（紙、個人）
1月　28日　　４，５歳児　園外保育（東京おもちゃ美術館）
2月　10日　　５歳児　自由にかたちをつくってみよう（紙粘土、個人）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

切り抜いた形の紙パーツ（色、形いろいろ）
台紙になる大きい紙
一人一本使えるスティックのり
紙粘土
園外保育のバス借り上げ

深川一丁目保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・どんなかたちが好き？好きなかたちが作れるかな？という問いを立ててこども達と始めてみた。かたちというものをどのようにとらえているのか、興味もありあまりガイドせずイメージを壊さないように意識しながら働きかけた。一人で取り組む回、グループで取り組む回と分けて行ったところ、じっくりと手を動かしイメージを膨らますところは同じだった。友だちとのつながりがしっかりと確立している5歳児らしく友だちとやりとりをしながら取り組むのは楽しみが増したようだった。また、4歳児クラスでも同じ取り組みをしたが、はりえのかたちとの向き合い方に年齢差というか個性があり、保育士にとっても学びになった。担当が担任外ということもあり、担任保育士も普段とは違った視点でこども達を見守り新たな発見ができた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・はりえの色がわかりやすい濃い色の画用紙にしたところ、色とりどりのパーツがとても見えやすかったようでまずは並べて楽しむ姿が多かった。並べてみて発想がわいたり、イメージが膨らむ様子もあった。はりえを進めるうちに次にほしいかたちがないと、困って大人に声をかける姿もあったが、次第に重ねてみる、折ってみるといったやり方を自分で試してみる姿、うまくいった友だちが声に出していて自分でも試してみる姿などが上がって思うように作ることができてきていた。活動の後半にどんなものを作ったか友だちと見せ合うことを行ったところ、自然とほめる声や拍手が出てとても良い雰囲気で活動が終わることができた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・活動をスタートするとすぐにイメージが膨らみ取り組む子、少しパーツをいじってみてから作る子と個人差があるものの作りたいイメージは一人でもグループの仲間と共有することも上手に行えていた。自分の思いを表現することに加え、ことばで伝えることの楽しさもあったようにも思えた。

・ひとりでの活動も楽しめていたが、友だちとやりとりを繰り返しながらのグループでの活動は楽しみ方も広がり、達成感も広がっていたように感じた。

古石場保育園

活動1

魚の住む世界～大きな水族館を作ろう～

2025. 11. 10
2025. 12. 08

１１月に葛西臨海水族館にクラスで遠足に行った。初めての遠足であったこともあり、興味関心も高まり楽しんでいた。こどもたちの楽しかった思いや発見を制作活動につなげてみようと考えた。

環境をデザインする

●準備したもの…模造紙(２枚つなげたもの)、絵の具、筆、描画用スポンジ、描画用歯ブラシ、水入れ、雑巾、新聞紙、お絵描きシート、テーブル、プロジェクター、書画カメラ

●【問い】「魚がいるところはどんな所だった？」
●ルクミーで写真撮影と、２日目にドキュメンテーション配信。

探究活動を実践する

●活動内容
・事前に水族館で見た魚たちと自分の絵を描いて、切り取っておいた。
・大きな模造紙を壁に貼って、プロジェクターと書画カメラを使って紙に自分たちが描いた魚を投映。
・絵の具で大きな模造紙に魚の住む世界を描く。
・再度、魚や自分人形を投映して楽しむ。

●こどもたちの様子
・水族館で見た魚が住む世界を、「青かった」「岩があった」「透明。透けてた」「暗い海もあった」砂のところもあった」などと表現していた。
・絵の具で海の色を作るのに混色が面白くなり、「ピンクって何色混ぜる？」などと自分たちで絵の具を混ぜられることを楽しんでいた。
・「ここ岩ね」「ここ砂ね」とイメージを持って描いていく児もいれば、絵の具で描くこと自体を楽しむ児もいた。
・プロジェクターで映すとそれを喜び、自分や友だちが描いた魚たちを次々に投映して動かし楽しんでいた。
・プロジェクターから出る光に気が付き、影絵のようにしたり、自分の影を映して海の中を泳ぐように動く児がいた。
・海の色を描いたり、海に住む生き物を次々と描いたりと、グループによって様々だが、それぞれが表現を楽しんでいた。
・描いた海の中を、自分の魚を映して動かしたり、その中で「ワカメ食べに行こう」などストーリを考える児もいた。

古石場保育園

振り返りをふまえた気づき

・1回目は4歳児室で行ったが、カーテンを閉めても明るく、プロジェクターの投映が見づらかった。２回目はホールで遮光カーテンを閉めて行うと、よく見えて楽しそうだった。

・魚を前もって作っていたこともあり、担任が海を描くと言うイメージを持っていたことで１グループ目は混色に気が向いたり、広がっていかなかったが、こどもたちの「もっと生き物を描きたい」という思いを自由に表現できるようにすると、のびのび描いていた。

・１グループ目は絵の具で描いたところに魚や自分人形を投映したが、先に投映を楽しむ方が良いのではと意見あり、２グループ目からは白い模造紙に先に投映をした。絵がよく見えて、魚を動かしたりと初めてやる活動にとても喜び、「ここを海にしよう」と描画も気持ちが盛り上がって描くことができた。

・プロジェクターで投映した中を泳ぐ児もいて、こどもの新しい発見を一緒に楽しめた。

古石場保育園

活動2　3歳

自然物を使った色水あそび　8月21日(木)

環境をデザインする

導入　「色水あそびをしよう」と提案し、すり鉢やすりこぎを並べておく。以前

●準備したもの…畑で育てていた野菜の葉、花、すり鉢、すりこぎ、水の入ったシャンプーボトル、ペットボトル、透明カップ、ビニールシート、雑巾（子どもたちの様子を見て、途中じょうごも用意する）

にも使ったことがあり、その経験から「葉っぱ」というワードが出てきたので畑に葉を子ども自身が摘みにいく。

１G（６名）9:55~10:25
２G（4名）10:25~11:00
３G（1０名）14:55~15:30
※活動の様子をルクミーで写真撮影

探究活動を実践する

●活動内容
すり鉢に自由に葉や花を入れ、すり潰す。

●こどもたちの様子
・すり鉢を見て「どうやって使うの？」と聞いてくる子もいる。
・好きな葉や花を入れ、すり潰しと容器に葉や花を入れることを繰り返す。
・すり鉢に水を入れると潰しやすいことに気づいた子は水を入れる。
・すり潰すことに集中する子と、すり鉢の中にたくさんの水を入れてじっくりと混ぜてみたい子がいる。
・色ができあがるとその色に近い果物や食べ物、プリンセスの衣装などを連想する。
・匂いをかいで「ぶどう」「メロン」「白菜」などの匂いを連想する。
・すり鉢に入った葉と水を見て「スープみたい」と連想する子もいる。
・ペットボトルや透明カップに移し替え、他児と色を見比べる。
・できあがったものをジュースに見立てる子もいる。
・夢中になって保育士が想定していた時間以上に楽しむ姿がある
・容器への移し替えでじょうごを用いたが、じょうごを使いたくてたくさんの色水を作り、容器へ入れるおもしろさを感じていた。

古石場保育園

振り返りをふまえた気づき

10 名以下と 10 名以上の人数で取り組んでみたが、少ない人数は子どもの自由な考えや言葉を聞き取りやすかった。多い人数は「○○みたいだね」という子ども同士のやり取りが活発であったように思う。

一生懸命にすり潰すほど濃い色ができあがり、そのできあがった色に驚いたような様子を見せる子もいた。『ぎゅっといっぱいすり潰したから濃い色ができあがった』と気づく子もいた（高月齢児）。

保育士が予想していた以上に水を自由に入れる姿があったが、そのためできあがりはきれいな半透明の色であり、より多くの果物や食べ物を連想するのにつながったように感じられる。

想定以上に遊びを楽しんでいたので、たっぷりと時間を取れるよう時間を延長して取り組んでいった。

すり鉢やすりこぎ、じょうごなどの道具が子どもの興味をよりそそったようであり、そのような道具を用意してあげるおもしろさも子どもの姿から感じられた。

完成した色水からジュースを連想する子が多い中、プリンセスのドレスの色に見立てた様子から子どもらしい発想であると感じた。

テラスから葉を自由に摘み取れる環境がとても良く、存分に活用できて良かった。

古石場保育園

小松菜で描いてみよう！染めてみよう！1月15日（木）、1月16日（金）、1月23日（金）

絵の具を用いた製作活動を通して、自由に描くことや染めることを繰り返し楽しんできた。育てていた小松菜が生長し、以前に葉をすり潰した経験と合わせ、小松菜をすり潰したものを用いて自由に描いたり、紙を染めてみるという製作活動につなげてみた。

環境をデザインする

●準備したもの…育てていた小松菜の葉、すり鉢、すりこぎ、水の入ったボトル、カップ、ビニールシート、筆、紙（半紙、和紙、キッチンペーパー）

導入　「小松菜のすり潰しをしよう」と提案し、すり鉢やすりこぎを並べておく。
以前の経験から畑に葉を子ども自身が摘みにいく。
すり潰したものを用いて筆を使って紙に描いてみたり、紙を染めてみることを提案し「どんな色になるかな？」「描けるかな？」と問う。

※活動の様子をルクミーで写真撮影

探究活動を実践する

●活動内容

すり鉢に自由に葉を入れ、すり潰す。

すり潰したものを用いて、子どもが選んだ紙に自由に描いてみる。キッチンペーパは浸して染めてみる。

●こどもたちの様子

・すり鉢を見ると以前使用した時のことを思い出しながら葉や水を入れ、すり潰し始める。
・すり鉢に水をたくさん入れる子もいる。
・すり潰す作業が好きな子は、葉を１枚ずつじっくりとすり潰していく。
・だんだんと緑色の水ができてくる（色の濃さは様々）。
・匂いをかいで「抹茶／キュウリみたい」と連想する子や、「大根みたいにからいにおい」と表現する。「くさい」と言う子もいる。
・他児のすり潰した葉を見て「ベトベトしてるみたい」と表現する。
・すり潰しが楽しく、その先の描くことや染めることに気持ちが向かない子もいる。
・色が出始めた子から紙を選び、筆を使って描いてみる。
・液の色は濃いのに紙に描くと色付きが薄く、「えっ」と思わず声をあげる。
・筆で描いた跡に葉のツブツブがあり、「描けてる！」と喜ぶ。
・色付きが薄いことを残念に思うのか、「もういい」と取り組みに満足してしまう子もいる。
・すり潰した液は濃い色なのにどうして描けないんだろうと不思議がり、「もう一回やってみる！」と再度すり潰しを行う子もいる。
・前回の経験と比べ「前のほうがやりやすかった」と比較する子もいる。
・他児の色合いを見て濃さに着目できる子もいる。
・濃さに着目できても“水を入れると薄まってしまう”ということまでの気づきには至らず、すり潰しと同時に水も入れている。
・染めるほうが色付きも良く、模様の出方を楽しむ子もいる。

古石場保育園

振り返りをふまえた気づき

すり潰しの作業を楽しめる子とそうでない子がいて、葉の大きさや状態に左右される印象があった。（摘みたて、小さくちぎったサイズ、解凍されてしなっていたもの）同じような状態の葉を提供するべきではあったが、それぞれで色の出方に大きな違いはなかったと感じる。

大人の予測に反してすり潰した葉で何かを描く難しさがあり、少数の子らの興味を深めることにつなげられなかった。保育士からの「どうしてだろう」の投げかけ等も、興味がなくなっている時点で子どもらに大きく響くことはなかったように思う。しかし、半数の子は「どうして色が出ないのか／薄いのか」と考えるような素振りを見せ、更にすり潰してみようと試してみるという流れも見ることができている。そのような子らは他児の色の出方にも着目でき、子ども同士で活発にやり取りする場面を見ることができた。子どもらによって反応の違いは様々であり、子どもの素直な反応を受け止めながらやりとりをしていくようにしていった。そのような対応ができたという点でも、３～６人の少人数ずつでの取り組みにして良かったと思う。

また、描こうとすると薄いのだが、染めると色が濃く出ることに気づいた児は、おおいに染めて楽しんでいた。描くことだけに限定しない活動内容にして良かったと感じる。

すり鉢への期待の高さをうかがえ、積極的に日常の保育でも活用していきたい。

塩崎保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	塩崎保育園
施設所在地	江東区塩浜2-6-3
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

うごく

＜テーマの設定理由＞

園庭の、大きなこいのぼりがおよぐ様子や、桜の花びらが舞う様子に気づいたこどもたちが、その様子や気づきをそれぞれのことばで表現したり、知らせあったりしている姿が見られ、そこから、雲、風、影にも気づき、うごくもの、事象への関心が深いことを職員が発見したことがきっかけとなりまりました。身体を動かすことが大好きな元気いっぱいのこどもたちであったことも、うごくというテーマにピッタリと感じたため。

２．活動スケジュール

４歳児
６月１７日、２０日、３０日、　７月８日、１０日、１４日、　８月２６日、２７日、２８日、
９月１７日、１８日、２５日、　１１月２５日、２６日、２８日、　１２月１７日、２２日、２４日
１月１９日、２１日、２３日、　２月１６日、１８日、１９日、　３月１０日、１１日、１２日
５歳児
６月１８日　８月２０日　１１月２６日

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

４歳児
水に触れられる環境（砂、ホース、ダンボール、積み木、アクリルケース、レフ版、ストロー、懐中電灯　他）、窓、太陽の光、絵具、光る紙、アクリル積み木、セロファン　他
５歳児
絵具、光る紙、アクリル積み木、懐中電灯、セロファン、OHP　他

塩崎保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

４歳児　６月～２月　各月３回　　　３月　各１日
６月「うごくものを見つけてみよう」　７月「川を作ってみよう」　８月「水の流れを表現してみよう」
９月「水の動きを見てみよう」　11月「光をみつけてみよう」　12月「水と光があったらどうなる？」
１月「深海」　２月「深海を作ってみよう」　３月「ばなな水族園を作ってみよう」「水族園ツアー」
５歳児　各１回
６月「光と影の国」　８月「花火大会」　１１月「虹」「光と影の国」

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

「大発見」が、クラスの合言葉となった今、最初は、自分だけをみてほしい！の大発見だったのが、今では、ともだちの大発見に「なになに？」と目を輝かせ耳を傾け、共感したり認めたりし合えるようになり、本物の「大発見」がたくさん溢れるようになりました。振り返りの中で「子どもたちの発見は視野が狭いからこそ深い気づきがある。子どもたちのみてみてに対してしっかり聞くことを大切にすることで子どもたちの共有が友達へとつながっていく。大切なこと。」と助言いただき、こどもたちの声を逃すまい！という姿勢を貫いたところ、こどもたち同士にも、同じ思いが芽生えていたということを実感しました。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

最初は、こどもたち全員に同じ経験をさせ同じゴールにたどり着けるようにした方が良いのでは？ということから導入がうまくいかないことがあったり、こどもたちの意見を聞きすぎたあまり準備物が多くなり、こどもたちの探究が深まらないことがあり悩みました。探究とはシンプルで良い、ひとり一人の「なんで？」「大発見」が違っていても、それら点をつなぎ合わせていけば良いことを気付き、そこからは大人のわくわくが止まらなくなったことで、より、こどもたちと共感し合えるようになりました。また、環境設定の大切さや、環境によって変化するこどもの視点等を多くのことを学びました。

東雲保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東雲保育園
施設所在地	江東区東雲1-8-5-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

光

＜テーマの設定理由＞

昨年度のプロジェクトから引き続き同じテーマで行う中で、そのクラスの光の感じ方の変化を活動を通して見守っていきたいと思ったため。４，５歳児で園の特色である異年齢交流をしながら光を感じ自由に表現し興味を広げられるようにするため。

２．活動スケジュール

9月　講師を招いて遊具を使って光遊びをする

11月　遠足に向けてグループ決め、魚を調べてみる

12月　遠足　魚を作成しプロジェクター等を使って表現する

１－２月　作成したものや積み木等を使って水族館を再現する

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プロジェクターやアクリル積み木、アクリルボード、透明度の高いピタゴラスやブロックを用意した。

ホールではプロジェクターやアクリル積み木等を設定した。

５歳児室は机を移動し、ライティングテーブル等も危険のない場所に設定した。

東雲保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

光を通して、暗い環境の中でペンライトなどの光源を使いながら色の混ざり等を感じていた。グループ分けは体を使って表現するグループ、構成しながら遊びを広げていくグループなどに分かれて少人数で活動していった。マクセルアクアパーク品川に行き、光の中でのクラゲの展示を見たり、カクレクマノミの展示やカメの甲羅の日干しの様子を見て後日模造紙に見た展示を思い出して絵にかいて表現した。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

アクリル積み木とペンライトを組み合わせる中で「火みたい」「ここは火事なんだよ」「消火しないとね」と話が広がりながら大きなマンションなどを組み立てストーリーが出来ていた。遠足では、クラゲやカクレクマノミなどに興味を示していて、後日クラゲの足の数に疑問を持っていたので、実際に絵を描き、図鑑をみながら知識を深めていった。水族館の経験を表現する時にグループごとで「こうするとクラゲみたいね」「ここはいるかのショーをするところね」など会話が弾み、必要な道具を揃えることで、思い思いの表現で再現することができた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

４，５歳児で異年齢での交流の中で、クラス保育でのこども同士の関わり方が深まっていった。グループで意見を伝える場面では５歳児が積極的に話をしている姿も見られ、クラスではおとなしいこどもも思いを伝えられるようになっていた。テーマの中で正解がないものも多いので、こども同士も「これはちがう」などの否定がなく、自由な発想でそれを認められる環境も表現の幅が広がったように思う。

東雲第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東雲第二保育園
施設所在地	江東区東雲2-4-4-103
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

世界との出会い（異文化コミュニケーションを通して）

＜テーマの設定理由＞

文化や言葉の違いがあっても、外国の友達や保護者に対して子どもたちが笑顔で関わる姿が見られた。こうした姿から、互いを思いやり受け入れる心を育むことの大切さを改めて感じた。そこで、さまざまな文化に触れる機会を設け、交流を通して世界と出会う楽しさを子どもたちが実感できるきっかけづくりを行いたいと考えた。

２．活動スケジュール

６月より、園全体で異文化コミュニケーションに力を入れたカリキュラムを開始した。世界共通語である英語に自然と親しめるよう、各クラスにおいて 30 分間のあそびの時間を設定した。また、４・５歳児クラスでは、日常的に英語に触れられるよう、毎日 15 分間の英語単語に親しむ時間を設けた。その他のクラスでも、遊具や音楽活動などを通して、英語を楽しみながら体験できる機会をつくった。さらに、９月にはバスを借り上げて年長児が「プレイパーク エリック・カール」へ出かけ、異国の絵本の世界を体験する機会を設けた。子どもたちは海外文化への関心を高めるとともに、想像の世界を広げる貴重な経験となった。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スクリーンを使用した英語ダンスの活動では、子どもたちが音楽に合わせて身体を動かしながら英語に触れる姿が見られた。視覚・聴覚・身体感覚を組み合わせることで、英語の音やリズムに自然と親しむことができ、楽しみながら異文化への興味を深める機会となった。
また、英語に触れる環境をより豊かにするため、英語関連の遊具（絵本、紙芝居、CD、DVD、かるた、パズル、積み木、音の出る遊具など）を追加で購入した。これにより、子どもたちは遊びの中で自ら英語に触れ、興味を深めることができるようになった。さらに、身体を動かしながら異文化交流を体験できるよう、ホールで使用する体育遊具についても新たに購入し、活動の幅を広げた。

東雲第二保育園

４．探究活動の実践

<活動の内容>

イギリスの先生とカードゲームをしたり、一緒にダンスをしたりしてコミュニケーションをとった。こどもたちが日本の踊りを見せてあげたいと発案があれば、披露をしたりして関係が密になっていき、異国の人に対して抵抗がなくなっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

異国の先生とは、カードゲームを通した遊びや一緒にダンスを楽しむ活動を行い、子どもたちは英語を使いながら積極的にコミュニケーションを取ることができた。また、活動の中で子どもたちから「日本の踊りを見せたい」という提案があり、自発的に披露する場を設けたことで、先生との関係がより親密になっていった。こうした交流を重ねる中で、子どもたちは異国の人に対する抵抗感が次第に薄れ、相手を受け入れようとする姿勢が育まれていった。文化の違いを越えて楽しみながら関わる経験は、異文化理解の基盤づくりとして大変有意義であった。

５．振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当初は緊張した様子も見られ、子どもたちは講師をじっと見つめるだけで言葉が出ないこともあった。しかし、回数を重ねるにつれて徐々に表情が和らぎ、笑顔や自発的な発言が増えていった。言語が異なる相手であっても、子どもたちは大きな壁を感じることなく、異文化コミュニケーションの時間を積極的に楽しむ姿が見られるようになった。また、「異文化コミュニケーションの日」を毎週心待ちにしており、「いつ来るの？」と講師の訪問を楽しみにする声も増えてきている。昨年度から継続して異文化に触れてきたことで親しみが生まれ、以前よりも声を出して関わろうとする姿が多く見られるようになった。最近では、自分から “Let’s play!” と声をかけて遊びに誘うなど、積極的なコミュニケーションにつながる場面も増えている。

辰巳第三保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	辰巳第三保育園
施設所在地	江東区辰巳１－１０－８１－１０１
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然（水）

＜テーマの設定理由＞

「水」に触れて遊ぶことが大好きなクラスで、その日の水道水がとても冷たく「氷みたい」との声を保育士が聞きつけ、身近にある水の見た目や状況の変化について実際に実験し興味や関心を持てるようにする。

２．活動スケジュール

１水に触れる。（夏、冬）
２色水遊び（食紅や絵の具で赤・青・黄色を作りスポイトですくい色の変化をみる。ごっこ遊びをする）
3製氷皿で氷づくり
４バケツ、カップなど自分で選んだ道具に水を入れ外に置き、翌日水の変化を観察し触れる。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】
透明カップ、スポイト、食紅（赤・青・黄）、絵の具（赤・青・黄）、たらい、ひしゃく、お玉、レンゲ、ペットボトル、砂場用バケツ、重ねカップ　小さな木の車、製氷皿
【環境設定】
一人ひとりの探求を尊重し見守る姿勢や共感する声掛けを心掛ける。
一人ひとりがじっくり楽しめるように、広いスペースやテーブルを用意する。

辰巳第三保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①水に触れる
水や氷に触れることで感触や温度の変化を感じ楽しむ。様々な道具や素材を用意し
水を使うことを楽しむ。
②色水遊び、ごっこ遊び
食紅、絵の具を使い色の変化、色を混ぜるとどうなる？など色の変化を楽しむ。
③氷づくり・あそび
夏と冬の水の違いに触れて知る。実際に氷づくりをして置く場所によってで氷のできないことがあったことで学びや気づきつながった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・夏は冷凍庫で作った氷に触れて、「冷たいけど気持ちがいいね」と触ったり、洗面器に入っている氷を昼寝明に除いたとき「溶けてる」との声や水に触れると「冷たくない」という反応があった。。
・色水遊びは、スポイトやレンゲですくって透明カップに入れて違う色を混ぜていくと「黒になった」と教えてくれる子もいた。カップに何色か作りジュース屋さんごっこなどをし楽しんだ。
・氷づくりは、１回目は寒い日が数日続いたため、保育士が「カップに水を入れたらどうなるかな？」と子どもたちに投げかけカップに水入れて外に置いてみた。翌日氷の写真絵本をみてからカップの様子を見に行くと、容器が小さく水の量が少ないためか薄く小さな氷ができていた。氷に触れるとすぐに割れてしまい子どもたちから「またやってみたい」との声。保育士が「場所により氷のでき方も違うみたい。夕方に好きな場所に置いてみない？」と子どもたちに提案し実験。翌日できた氷を子どもたちと再度確認。「ひびがはいっている」「シャボン玉みたいなものがある。（気泡）」「（割れた氷を見て）ナイフみたい」との声。「割ってみたらどうなるんだろう」と疑問を持つ子も子もいて手で割って触れたり氷を上にあげて「キラキラしていてきれい」という声も聞かれた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・こども一人ひとりが、思い切り使える材料を揃えたことにより色々な活動を十分に楽しむことができたと思う。
・今回は、子どもたちが好きな水をテーマにしたことで「冷たい」「冷たくない」など興味や探求心を刺激する貴重な体験がたくさんできたと思う。そして日頃から馴染みのある水だったため子どもたちのリアクションがたくさん見られてとても楽しいものであった。

東陽保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東陽保育園
施設所在地	江東区東陽3-22-1-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

「水」

＜テーマの設定理由＞

昨年度のテーマの「水」を今年度も行い、活動内容を変化し、普段触っている水に触れたり、色の変化や様々な道具を自由に使い、発見する面白さ、どうなるんだろう？こんな風にしたら…などこどもたちがもっとワクワクし、探求する心が芽生えるのではないかと想定した。

２．活動スケジュール

3グループ（１グループ５人ずつ）　1回1時間

1回目　6/5　　　　２回目　7/4・７

3回目　9/17・18　　４回目　11/5・7

5回目　1/27・28

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・図鑑、水をテーマにした絵本、絵の具、ローラー、スポンジ、飼育ケース、ひしゃく、
テーブル、ロール紙、ローラー、刷毛、食紅、マーブリング液、霧吹き、ジップロック、保冷バッグ、マイクロスコープ、ルーペなど

1、2回目は園庭でたらい、傘袋に水を入れ鉄棒に下げる、水にかかわる実験など

3，4回目はホールの壁や床にロール紙を貼り、絵の具（刷毛やローラーを使い）を使い「水」を表現できるよう設定

5回目はマイクロスコープやルーペを使い霜柱を観察。霜柱の観察がしやすいようにジップロックに入れられるようにした。

東陽保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

１、２回目：「水に触ってみよう」園庭でたらいに入った水に触れ準備した道具を自由に使い、感触を楽しむ。水の不思議（実験）体験を楽しんだ。

3，４回目：「氷色水、霧吹きを使って描いてみる」「水を描いてみよう」をテーマにホールの壁や床にロール紙を貼り氷色水、刷毛やローラーを使い自由に描き、友だちと共同でイメージしながら描いた。

5回目：「外の水を探しに行こう」をテーマに散歩に行き、霜柱を発見し、ジプロックに入れ、マイクロスコープを使って観察したり、運河に行き、運河の水を見ながら水面を楽しむなど発見を楽しんだ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

１、２回目は遊び始めるまでは少し緊張し、控えめだったが、水に触れるうちに感触を楽しんだり、ビニール手袋に水を入れ膨らんだり、形を楽しむなど友だちと共有しながら試していた。３、４回目は氷色水は描くうちに氷が溶けていく感触を楽しむ、水を表現することも雨、川、海、水道から出てくるなど一人一人がイメージしながら描き、友だちの様子を見て真似し、更に発展させながら表現を楽しめた。５回目はマイクロスコープを使って霜柱の拡大を楽しみ、目では見えないところが見えたり、発見を楽しんでいた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・少人数で行うことで一人ひとりのつぶやきが聞くことができる。
・こどもたちが夢中で遊ぶ姿がり、楽しいことがあると根気よく遊んでいる
・こどもたちの発見に保育士がすぐに答えて対応できる。
・こどもが発見している姿がたくさん見られ、探求している様子が出ていた。

亀戸保育園

R7年度　すくわくプログラム　　　　　　　　　　亀戸保育園

テーマ「　色　」

〈設定理由〉※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

　筆やスポンジなど道具や様々な絵の具の色を用意して絵の具遊びを行ってきた。その中でこども達の姿を振り返ってみると、「これキャンディーなんだよ」「恐竜描いたよ」と紙に表現したこと、「ふわふわする」「これ使うといっぱい描ける」と道具の特性のことなどの話題は出てくるものの、色のことは意外にも話にあまり上がらないことに気づいた。その要因として、絵の具をこども達に用意する時に保育士が選び、提供しているからではないかと思った。今回、様々な色の絵の具を用意し、自分で選び取ることで色の変化に着目して遊ぶことを楽しめるのではないかと考えた。

〈活動スケジュール〉

日程	令和7年12月23日（火）	10：00～11：30	絵の具の活動を実施
		17：00～	職員での活動の振り返り、講師の助言
参加人数	14名		

〈実施した活動の内容〉

〇準備したもの

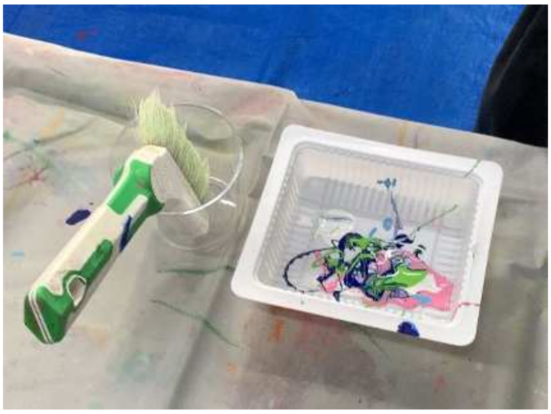
・絵の具（白、黒、赤、もも、青、水色、黄緑、緑、黄色）
・ジャンボロール紙（黒、クリーム、薄桃、薄水色）
・豆腐パック（大、小　様々な大きさ）
・筆（水彩画筆、刷毛）
・スプーン

〇導入

　９色の絵の具の入っている皿、筆、容器のあるテーブルを紹介し、どのようなものが用意されているかを見た。

亀戸保育園

〇こどもの姿
・スプーンで絵の具をすくって容器に垂らしてトロッとした感触を味わっていた。
・異なる絵の具を同じ容器に入れても混ざり合わずにマーブリングのような模様になることを発見し、様々な色を同じ容器に入れて模様作りを楽しんでいた。
・マーブリングのような模様になった絵の具を筆に付け、壁に貼った模造紙に付けるとどうなるかを試していた。絵の具の色が混ざり合い混色になるとマーブリングのような模様にならないことを不思議に感じていた。
・様々な色の絵の具を同じ容器に入れて筆で混ぜると茶色のような色になった。それを見て、「カラフルな色。」と言っていた。



〈振り返りによって得られた気づき〉
・保育者が絵の具の色を限定して準備するのではなく、こども達が自分で使いたい絵の具を決められるように様々な色を用意したことで色を意識して遊ぶ姿が見られた。こどもが決める経験は主体性に繋がると感じた。
・水で絵の具を薄めずに絵の具を環境として出したことで、絵の具特有のトロッとした感触に気づいていた。また、様々な絵の具をスプーンですくっただけでは混ざり合わないことを発見し、スプーンで絵の具の模様を作っていた。こどものやっていることを保育者が肯定的に受け止めることでこどもは自分の考えたことややってみたいことを伸び伸びと表現することができると学んだ。
・絵の具が混ざり合って茶色のような色になったものをこども達は「カラフル」「きれいな色」と言っていた。そのことからこども達にとって茶色のような色でも自分で作った色は魅力的で、きれいな色とそうでない色は大人にとっての価値観であることに気づいた。
・講師の先生より「どのくらいの時間遊んでいたのか？」との質問があった。昼食前まで遊ぶ時間を取ったこと、もっと遊びたいこどもにはこれから午睡の準備をしなくてはならないことを伝えたことを話した。講師の先生からは「園生活の中で提供できる時間をたくさん取れて良かった」との話を頂いた。こども達が思う存分に遊びができるように時間を作ることの重要性を感じた。

亀戸保育園

R7年度　すくわくプログラム　　　　　　　　　　　亀戸保育園

テーマ「　色　」

〈設定理由〉

※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

今まで蛍光絵の具は、素材(空容器やプチプチ等)に塗ってブラックライトで照らす楽しみ方をしてきた。しかし蛍光絵の具とブラックライトをセットで何度か活動したことで、こども達の中で蛍光絵の具はブラックライトと使う絵具という認識になってしまった。
そもそも蛍光絵の具とほかの絵の具を一緒に出したことがなく、例えば蛍光絵の具と水彩絵の具の色味の違いなど気付く機会がなかった。そこで今回ブラックライトがない環境で、蛍光絵の具とアクリル絵具を一緒に出す、また布やプチプチなどの身近な素材を出したらこども達がどこに面白さを感じ、またどのように活動が発展するか気になったため。

〈活動スケジュール〉

2月13日(金) 時間 10:00－11:30
参加人数　8名
後日、不参加だった2名も同じ活動を行う。(3月中旬)

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真
※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど　子の新たな一面がみえる一人一人の声を

【準備物】
白Tシャツ(大人M)・アクリル絵の具(三原色＋白黒)・布用メディウム(アクリル絵の具に対して1/10)・蛍光絵の具(三原色＋白)・切り開いたジュースパック1/2 にカットしたもの40枚・いろいろな描く道具・さまざまな太さ、色、質の毛糸、リボンなど・スタンプにしたら面白そうなもの(積み木・キャップ・滑り止め・レース・網状のもの・段ボール等)・木製の積み木(ひのき・すぎのき)20個スタンプ用土台・両面テープナイスタック屋外掲示用幅50mm×5m・ハサミ・雑巾・バケツ・使い捨て養生シート・浅羽先生持参毛糸の綴じ針
・当日はジュースパックに2色ずついろいろな組み合わせのパレットを用意する。

【導入】
浅羽先生より、これからどんなことをするのか浅羽先生の作った T シャツを見せながら少しだけ実践する。その際一つひとつ準備した素材などの説明は行わなかった。
一人一枚 T シャツが用意してあることは伝えておく。どの T シャツを使うかはこども達に任せた。その際、縫い針を使用するときに「こうしてしっかり縫えるから洗濯しても大丈夫だよ」と伝えていた。

亀戸保育園

【活動の様子】
◎縫い針を用意しておくと、保育者に手伝ってもらいながら服に縫い付ける姿も見られた。
◎ジュースパックをパレットとして使用し、絵の具を二色ずつ用意したり、こどものリクエストに応えて絵の具をその都度足す。三原色＋白黒を自由に混ぜて、三原色に無い緑や紫など色を作ることを楽しみまた発色のいい蛍光絵の具を好み、使い楽しむ児もいた。

◎A 児がスタンプ台に使用していた両面テープをＴシャツに貼り、キャップや積み木をくっつけ始めた。それを見ていたB児は「落ちるんじゃない？」とA児の行動に物申す。しかし、しばらくA児の様子を見ていたB児も気付くと両面テープをTシャツに貼り積み木やスポンジなど立体物を貼りA児と見せ合いっこをしていた。

◎D児は、「この積み木を使って丸を押してみよう」とアクリル絵の具を混ぜて作った緑色を積み木につけてＴシャツにスタンプする。「先生見て！」と嬉しそうにキレイに押された丸を保育者に見せてくれる。

亀戸保育園

「次は何色にしようかな」と独り言をつぶやいているとＥ児が「私の絵の具使っていいよ」とＥ児が作った絵具のパレットを差し出した。Ｄ 児は「ありがとう！」とパレットを受け取りその後は二人でパレットを交換しながらＴシャツに色を付けていた。

〈振り返りによって得られた気づき〉

・Tシャツに自由にデザインするという活動でまさか立体的な作品が見られると思っていなかったので、大人では思いつかないようなこども達の自由な発想やひらめきに驚かされた。

・友達から刺激を受けて自分もやってみようと挑戦する姿がたくさん見られた。こども同士で刺激しあいながら造形活動を楽しむ姿が見られていた。

・すくわく当日欠席だった2名は、別日に同じ活動を行った。2名は自分のイメージを膨らませながらじっくり楽しむ様子が見られていた。普段は「どうしようかな・・・」と周りを見てから取り組む姿も見られていたが今回はのびのび思うままにデザインしていて、環境によっても完成する作品は違うものができるのではないかと感じた。

・今回、アクリル絵の具と蛍光絵の具の色の発色の違いについては、こども達から声が上がらないくらい三原色＋白黒のアクリル絵の具と蛍光絵の具を使うことを楽しんでおり、蛍光絵の具とブラックライトがセットだというイメージが別々になったように感じた。

亀戸保育園

R7年度　すくわくプログラム　　　　　　　　　亀戸保育園

テーマ「　色　」

〈設定理由〉※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方
子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

問　・様々な色、素材などを組み合わせて、透明と不透明、透ける透けないの視点で遊んだらどのような姿がみられるか　（日常の造形遊びの中で、作品や素材を光にあてて色の変化を楽しむ姿があったため）

〈活動スケジュール〉
R8年1月15日（木）５歳クラス
ホールにて　10：00～11：30
一斉活動（12名参加）

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真
※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど　子の新たな一面がみえる一人一人の声を拾う

〈用意したもの〉

・クリファイル、カラーセロハン、京花紙、ポスカ、ブロッキー、色画用紙、
　光（スタンドライト、卓上ライト）など

・今回初めての素材・道具…ホチキス、穴あけパンチ、
　ソフトワイヤー、メディウム

※多様な見方を楽しめるように、吊るして光を当てて見られるようにする。（クリップ、ワイヤー等を準備する。）

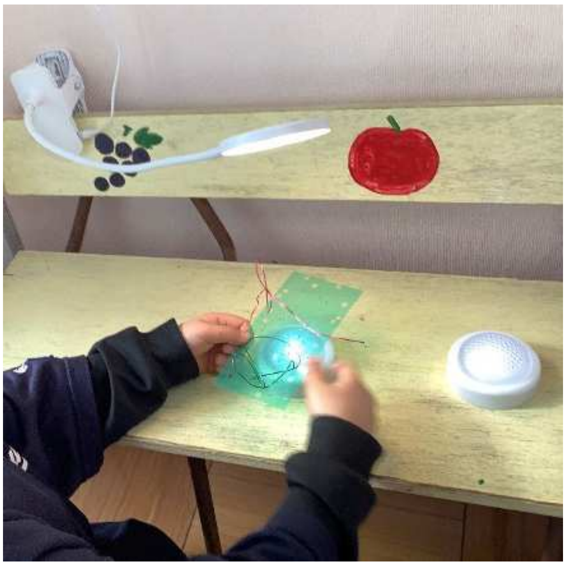
〈導入〉
・始めに、素材の紹介をする。
・初めての遊具（ホチキス、穴あけパンチ）の使い方を知らせる。

亀戸保育園

〈活動〉
・初めての素材や道具をまずは手に取り試す姿があった。
・クリアファイルに色を付けたり、素材を貼ったりして楽しむ。
・ホチキスを使い様々な形にしてみる。
・メディウムとポスカを混ぜ変化を楽しむ。（色、感触、動きなど）
・穴あけパンチを使ってワイヤーを通す。

・H はポスカで様々な色を重ね「きれいな色じゃないね」とつぶやきながら、色々なポスカを試す。ライトにあててみたりしながらもライトの当て方、違うライトを使うなど「まぶしい」と反射にときめきの姿をみせながら楽しむ姿があった。

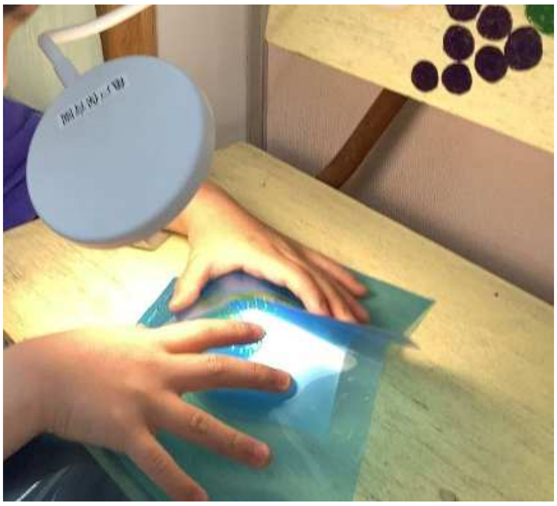
・R は緑色のファイルにメディウムを筆で付けると繊細な線が現れる。絵とは違う偶然に現れた物に対して「芸術みたいな物」と表現する。角度をかえながら何度もみて色や形の変化を楽しむ姿があった。



・K 「真ん中に穴をあけたい、どうしよう」と半分に折り、あけてみる。「ふたつもいらないんだけど」とテープでひとつふさぐ。次に穴にワイヤーを通して固定したい様子ホチキスでは止まらず、テープにしてみるなど自分のイメージにたどりつくまで試行錯誤を重ねる。

亀戸保育園

・H　カラーセロハンとファイルを数枚重ね
ファイルの間にメディウムを入れて表面の
色の違いに気づく、手をかざして、見えたり
見えなかったりする面白さに気付き繰り返し
楽しむ姿があった。共感したい気持ちが溢れ
ていて保育者に話しかけていた。



〈振り返りによって得られた気づき〉
・新たな素材との出会いからたくさんの気付きがあり、その楽しさ面白さが探求心に繋がり次々と展開していく姿があった。素材選び、設定、時間の保障の大切さを改めて感じた。
・普段からボンドやのりを使って遊んでいたからこそメディウムの出会いは特性に気付き、たくさんの発見があり面白さが探求に繋がった。
・こどもと大人とでは「すごい」と感じる所が違い、こどもも、一人ひとりの感性があり、その違いが面白い。それこそが大切であると感じる。
・こどもからの「芸術」という言葉が聞かれたことの意図を職員間で話し合う。
「上手に」ということとは違う気持ちを職員は感じた。造形活動をする中で「否定がない」大人の関わりが、感性がこども達に伝わり作品に対して同じような感覚を持っているのではないか。話し合いの中で共感する。嬉しい思いであった。

亀戸第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀戸第二保育園
施設所在地	江東区亀戸7-41-16　3･4階
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

土粘土でどう遊ぶかな

＜テーマの設定理由＞

亀戸第二保育園は園庭が屋上にあり、土や木がないため公園に行き自然との関わり楽しんできました。そのため、「こどもにとっての公園とは何か」を大きなテーマとしてきました。その取り組みのなかで、屋上園庭にある1㎡の砂場でもこども達がよく遊んでいることから、どうして砂（土）がこんなにも好きなのかに着目しました。そして園庭に土がないことから上記のテーマを選びました。

２．活動スケジュール

１０月　硬い土粘土（高塑性粘土）と触れ合う
１１月　柔らかい土粘土と触れ合う
１２月　硬さの違う粘土に触れ合う
１月　　ライトの光をあてた土粘土と触れ合う

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

高塑性土粘土、柔らかい土粘土、透明シート、自然光、スタンド式ライト

亀戸第二保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

１回目は部屋に透明シートを敷き硬い土粘土の塊を立てて置く。照明は半分にし自然光を取り入れ土粘土へ目が行く環境を整える。３～４人づつで土粘土に触れ、イメージを膨らませながら触れ合いを楽しむ。２回目は粘土の素材を柔らかいものにして同じ環境を設定して楽しむ。３回目は硬さの違う土粘土を両方用意して同じ環境のもと楽しむ。４回目は今まで自然光だったところにライトを用意し粘土を照らして楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

１回目は素材が固く、指で穴をあける、持ち上げるたたく、小さくちぎり見立てて遊ぶ。友達の言葉を聞きまねて遊ぶ。２回目は素材が柔らかく「どんぐり」「いちご」等形あるものを作り、イメージを膨らませる。また粘土の上でジャンプし足跡を付ける。３回目は硬さの違う粘土を混ぜたり、頭や首に乗せ重さの違異を楽しむ姿が見られた。また足で踏んだり、手でつぶすなど斬新で楽しむ。形が変形しやすいねんどを好む子が多かった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・自然光の中土粘土を塊のまま床に置くことで素材としっかり向き合うことが出来たことから、音や光を含めて環境をデザインする大切さを感じた。・粘土という素材は同じだが、じっくりかかわる中で素材の性質にに気づき探究心を膨らませていたことより、時間も重要な環境に一つと学んだ。また素材と関わる際に「なんだろう」と自分の中で対話する時もあるので、探究の中で一人で入り込む時間も大切だと感じた。

亀戸第三保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀戸第三保育園
施設所在地	江東区亀戸1-24-6
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

・「自然」を園の特色としており、日頃より自然を通して乳幼児の感性や探求心を育てることを保育の大きな柱としているため。

２．活動スケジュール

活動期間　令和7年６月～令和8年３月

活動回数　幼児：２～３か月に１回

乳児：４か月に１回以上

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

石・土・砂・泥・水・氷・花・段ボール・懐中電灯・カラービニール・積み木・テーブル・花・食紅・アルミホイル・砂糖・塩・ペットボトル・絵具・絵本・たらい・ベンチ・シャベル・机・手鏡・透明折り紙・ホログラムシート

亀戸第三保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

3歳児クラス

「ひかりってどんなもの？ひかりはどう変化する？」

・懐中電灯の光を使用し、光の反射などの性質を感じ、光に色々な素材を組み合わせることでどう変化するのかを楽しみ、探求する。

・暗い中で懐中電灯の光を鏡に反射させる。最初はお化け探しをしながら光の性質を感じ、その後反射させる鏡や懐中電灯に色々な素材を使用し、その変化から自ら考えて探求していく。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・鏡に素材を貼るときに、べた貼りをしている子がほとんどだったが、筒状にして貼る子もいた。
・アクリル積み木を懐中電灯の上にのせたり、逆さにしてみたり、積み木を重ねて光を当ててみたりしていた。
・鏡に貼ったホログラムシートやアルミホイルでは反射せず、少しがっかりしていた子もいたが、は光が小さくなったのを感じる子もいた。
・鏡にホログラムシートを貼ったが反射しなかったのを見て、「やりすぎちゃったかな？」という子がいた。
・反射している自分の光が「どれかわからないよ！」と言っている子もいたため、話して伝えた。
・それぞれ工夫して素材を貼ったり、はがしたり、積み木を透かしてみたり、光の変化を感じていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・少人数で行うことで、こどもの気づきや発見を感じたり、丁寧に関わることができた。

わかば保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わかば保育園
施設所在地	江東区大島9-7-8-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

『自然』～こどもにとっての自然とは～

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

保育園の特色が「食育」であり、園内でもたくさんの野菜を育てている。食育に通じるものとして自然から得られるものが多いということから、テーマを「自然」と決定した。

２．活動スケジュール

５歳児・・・　７月（２日間）　　４歳児・・・　９月（２日間）

３歳児・・・１１月（２日間）　　２歳児・・・１２月（２日間）

０歳児・・・　１月（１日）　　１歳児・・・　２月（２日間）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

モニター、タブレット

【３～５歳児】ロール紙、模造紙、みつろうクレヨン、絵の具、筆、はけ、スポイト、スポンジ（ホール）

【２歳児】布、黒画用紙、懐中電灯、クリスタル積木

【１歳児】氷、洗面器（プールサイド）

わかば保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

　全クラスで自然をテーマにした探究活動を行う。各クラスでサブテーマを決め（光と影、空、色探し、冬の寒さ）、年齢や発達に沿った活動を展開していく。３～５歳児クラスは、サブテーマについての絵の具を使った表現活動、２歳児クラスは室内で光と影について、１歳児クラスは冬の寒さ（氷）について、０歳児クラスは公園の自然の中で探求活動をおこなった。活動を少人数で行ったことで、こどもの声により耳を傾けることができた。

　活動の様子を写真やメモで記録し、スライドショーを見ながら、職員全体で活動の振り返りを行った。また、活動中のこどもたちの様子から、更なる「問い」を見つけ、次回の活動につなげていった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

　少人数での活動ゆえ、こどもの表現や発見に対して保育士がすぐに対応することができ、そのことによってこども達が自由にまた自信をもって表現することができていた。普段は目立つ行動が多い児が集中してつぶやき声になったり、また普段は自信なさそうにしている児が生き生きと活動している姿があった。

　昨年度経験している４、５歳は始まる前から楽しみにしている様子があり、他の年齢のクラスも活動後に「またやりたい」の声が多く聞かれた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・言葉掛けの中で「なぜ」と問いかけるとこどもは答えを探してしまうので、「どうやって」と聞いてみると答えてくれる。
・「問い」はこどもの言葉から出てくるので、こどもの言葉に耳を傾けていく。
・すくわく活動は、普段の保育を違う角度から見てみる活動である。
・保育士が楽しむ様子が、こどもの楽しさやリラックスにつながる。

大島保育園

すくわくプログラム活動報告

活動のテーマ	設定理由：これまでたくさんの葉っぱに関わってきており、いろいろ作ったりもしてきたので テーマ：落ち葉の世界を楽しむ
活動 スケジュール	11月27日(木)　9：50～11：05　1G　3名　11：05～11：55　2G　3名 11月28日(金)　10：15～11：00　3G　4名 12月1日(月)　9：30～10：15　4G　4名　10：30～11：15G　4名
活動のために準備した素材や道具、環境の設定	・透明シート　・トレーシングペーパー　・チョーク　・トレー ・模造紙　・新聞紙　・画用紙　・クレヨン　・絵の具 ・ブルーシート　・バレン　・タイヤ　・筆　など
探究活動の実績	＜4グループ＞ 葉っぱの形に注目して自分の好きな葉っぱはどれか選んでいく様子があった。大きな葉っぱが大人気で、それぞれ手に取ると「スタンプしてみたい！」と一人が言うと、他の人たちもスタンプがしたいと声を出したので、絵の具を用意すると、どの色がいいのか自分で絵の具の色を選んで塗ってスタンプしていった。スタンプが出来上がり、グループの振り返りの時には自分のこだわりの色の部分を発表してくれる姿や、その色や形からさらに想像が広がって、「これはクリスマスツリーだよ」などと、どんな葉っぱなのか紹介し合っていった。クリスマスツリーといった人は上にお星様をつけたいと言っていたので、振り返りの後にどうやってお星さまをつけるか確認すると自分で描くのは難しいといったのでこういったのもあるよとシールを見せると、喜んで受け取ってシールで星を表現して貼り付けていた。また模様や色合いから「いろんな色のバラなんだよ」、他には「ここはライオンで、これは人、ここにいるのは牛で…」と発表で教えてくれる姿や、友だちも「これはうさぎかな」と読み取ったイメージを言ったりしてやり取りも膨らんでいた。 2番目のグループはどの葉っぱが仲良しか形合わせをしたり、図鑑に照らし合わせてどの葉っぱが一緒か探したり、「この葉っぱの匂いはどうかな？」、「園庭の匂いかな」と匂いを嗅いでみたり、穴の空いた葉っぱを探して「青虫さん、この葉っぱが美味しかったのかも」と考えたり、「この色腐ってるゾンビの色だ（まだらな緑）」、「ゾンビ葉っぱ探そう！」と探したり、ちぎったりハサミで切ったりして「これは硬いな」と感じたり、「葉っぱの飾りができたよ」、「ヒラヒラするのが綺麗！」、「これはカスタネットだよ」、「ここは目で、これは口で…、ペンギンだよ！」と出来上がったものを発表し合いっこもして楽しんだ。ちぎったりはさみで切ったりして表現するだけでなく、その前とどう変わったのか間違い探しごっこもし、当てっこをしたり、できたカスタネットをたたくふりをするなど、葉っぱで遊ぶことも楽しんでいた。
振り返り	＜実践者の振り返り＞ それぞれの発見を共有できるように、その都度誰がどのように感じ取ったのか、どんな発見があったのか、どんな表現をしたのかなど共有していけるように保育者が媒介として発信していったことで、関わり合って一緒に探したり、見せ合ったりする様子へとつながっていった。それぞれのグループで葉っぱの楽しみ方や表現も違い、一人一人のイメージややり取り、発見も豊かに広がった三日間の取り組みだった。もっと楽しみたい姿もあったので引き続き葉っぱで楽しめるように計画していきたい。各グループで振り返りをしていったので、全体でもどこのグループがどのようなことをしたのか、どんな発見があったのかなど共有できるよう、全体での振り返りの会も設けていくようにしたい。

大島保育園

	＜グループごとの振り返り＞（11月３Ｇと同時に振り返りを行ったので同文です） ・３グループは一枚の紙をうまく共有できていた。 ・クリスマスツリーの飾りをつけたいという人に、すくわく活動後にも続きができるように対応していくことがよかった。 ・やりたい遊びができるようにたくさんの準備をあらかじめしていることがすごい。 ・少人数の良いところ、集団の良さもある。今回のようにすくわくでは丁寧に声を拾って思いに沿うことができる。 ・葉っぱにはでんぷんのりを使うことで、葉っぱの色がきれいに見えてよかった。 ・こどもの主体性に重点を置いて誘導的にならないようにとの声かけの難しさも挙げられていたが、保育者の声掛けに刺激をもらっての気づきもあり、その良さもあるので、それほど慎重に難しくとらえなくても大丈夫ではないか。 ・事前準備がしっかり行われていた。部屋には葉っぱの絵が張られていたなど導入の仕方がよかった。 ・少人数だからこそ自分の発想を自由に出せる機会になる。同じ内容でもグループによって違う結果になった。 ・遊びを通して大人に見てもらえている喜びを感じると思う。 ・道具はある程度揃えておいてあった。はじめに出すのは葉っぱのみ。 ・散歩で集めた落ち葉を部屋に飾っていた。 ・子どもの声を丁寧に拾い、見守ることの重要性を再確認した。 ・加藤繁美先生の「声をかけられる喜びを知った子どもだけが、相手の声を聞き取ることができる」という言葉が印象的で、保育の本質を考えるきっかけになった。 ・こどもの願いをかなえることや目的達成だけでなく、子どもの心の声や思いを丁寧に引き出すことが大切だと感じた。 ・子どもの自己肯定感を高める関わりが、他者との関係性を築く基盤になると学んだ。 ・保育者同士で語り合い、意見を共有する場が保育の質向上に不可欠であると実感した。 ・活動から多くの学びを得ることができ、非常に有意義な時間だった。 ・活動を通して「楽しかった」「学びになった」という実感があり、今後の保育実践に活かしていきたい。

大島保育園

大島保育園

大島保育園

大島保育園

すくわくプログラム活動報告

活動のテーマ	設定理由：こどもにとって石はどのような魅力があるのか疑問が浮かび テーマ：こどもたちにとって石ってどんな魅力があるの？なんで集めるの？
活動 スケジュール	12月11日(木)　1G ９：２５～９：５５　　2G １０：００～１０：３０ 3G １０：３０～１１：００ 12月16日(金)　1G　１０：００～１０：３０　　2G　１０：３０～１１：００ 3G １５：４５～１６：１５
活動のために準備した素材や道具、環境の設定	用意した素材・道具 ・石(散歩のときに拾ってきた)　・石を入れる紺の色の布がかかったトレイ ・雨どい３本　　・木の板３枚　・油性ペン　・画用紙 環境設定 ・カルガモルームを使用。かるがもルームにあった遊具などは片付け、不必要な物に布をかけて。活動に集中できるようにした。最初に、石をテーブルの上に１つ置いておく
探究活動の 実績	＜１グループ　K、S、Y＞ ９個の石を順番にみる。我先に取ろうとする姿があったので、１つ１つ丁寧に見ていくことを伝えた。保育者が１つの石をとり、３人に見せる。「どこが好き？」と聞くと「ここ！」と言って石の場所を指さして伝えることが多かった。K は、ざらざらしているところを選び、S は石の窪んでいるところを気に入って選んでいた。それぞれが話した石の好きなところを、保育者が言葉にして他児たちに伝えていった。石のとがっているところや石の滑らかな部分も触ってみるよう声をかける。すると K は「消しゴムみたい」「乳しぼりみたい」と話していた。石をゆっくり見ているうちに「この石はハンドルみたい」と K が話す姿もあった。その後、石を打ち付けて音を楽しんだり、３つの石を並べて、“電車”“ワニ”などと見立て遊びも楽しんでいた。S は、石を打ち付けて割れた石のかけらを見て「石の皮が取れた」と話していた。また、K は、石を横に並べた後、自分で積み上げることも行っていた。石を転がすことも予定していたが、観察だけで３０分使ったので、ここで今回は終わりにした。 ＜２グループ　Y、H、F＞ テーブルに置いてある石を一人ずつ手に持ち、Y は「ハートにみえる」と言うと F も同じように言う。H はこの時はまだ友だちの言うことを真似していることが多かった。H は手に持つとすぐに「つめたい」と言っていた。Y は「もう１かいさわってみる」と言って持つ。その後も Y は何回も触りたいと言いその度に２人も触れていくが繰り返すうちに H は顔に見えてきたようである。「めみたい」と言ってみたり、F は「でんしゃみたい」「すべりだいみたい」と初めは友だちの真似だったのが自分で感じたイメージを言葉で表現し始めていた。H が「ポテトみたい」と言うと Y も「ポテトとジュースみたい」「のどかわいちった」「ポテトのにおいがする」とイメージを共有しながら様々な感覚を広げていた。指先で触ると Y が「シャバシャバする」と表現すると H は「サワサワ」触れた感覚を言葉で表現していた。 ＜３グループ　I、N、T＞ かるがもルームに入室し、各々椅子に座ってからテーブル中央に置いてある石を見て、１人ずつ順に石を触ってみての感想を聞いていった。T「ざらざらしている」N「かたい」I「きもちいい」と感触を伝えてくれ、その際保育者は一人ひとりの言葉を復唱していった。復唱する事で個々の感想を全員で共有し、そこから言葉やイメージが広がっていくのではと考え復唱という形をとった。また、一人ひとり好きな部分や感触が異なった為「〇〇ちゃんはこの部分

が好きなんだって」と知らせていった。個々の言葉、姿に目を向けて知らせた事でその後次々と言葉が出てくる印象を受けた。また、N は「N ちゃん、おててがやわらかいからかたいのがすき」と具体的な理由も伝える姿に驚いた。９つの石から好きな石を選ぶ場面では、I は一度手にした石を手元に引き寄せるが再度石を選び直していた。２名の姿と異なり、よく見て選んでいたという姿がよく伝わった。また、I は後半になってから言葉を多く発し、場の雰囲気に慣れる事で自分の気持ちを表していた。T は、３つの石を選ぶと大きな石を中央に立てて残りの２つの石で挟み自立させる。「これは、き！」と木を表現し、高くする為にはどうすればいいのかと考え、組み立てていた。

＜4 グループ　A、Y>

　A は、前日に行ったすくわく活動で他児等が「たのしかった」と言っている姿を見ていることもあり何か楽しいことがあると期待しながらかるがもルームに向かっていた。入室するとテーブルの上の石には気づかす、周りを見回していた。椅子に座り目の前の石にもすぐには興味を持つことはなく「あそぶのどこ？」と言うこともあった。興味を持つきっかけとなるように声をかけていくと「でっかいいし」「ルイジにみたい」と言い始め「ちょっとなめてみた」と本当に舐めてしまう。石に気持ちが向くようになると「(石を見て）シマシマしているのがいい」「でんしゃみたい」と電車をイメージして動かして遊び始めていた。Y は、表情は明るくその場にいることが嫌な訳ではないようだが目が合いながらも問いかけには一斉答えようとはしない。様子や表情からは本児の思いはわからずにいた。進めていく中で石の感触は触りながら「ツルツル」「ザラザラ」と小さな声で知らせることができた。

＜5 グループ　S、K、Y>

「これ、なーんだ？」と保育者が尋ねると K は「くろわっさんみたーい！」と言う。３名共「石」とは言わず、どんな形に見えているかを返し、S は K を真似て同じように言っていた。石を使って音を鳴らすと、S は「あんぱーんちのおと」と表現する。大きいや小さいといった音量ではなく、その音がどんな音なのかを表現していた。その後順に好きな石を選んでいくと、Y はままごと遊びが大好きな事からまな板と包丁に見立て動物に食べさせたいとご飯を作っていた。好きな遊びがあるとどんなものでもその遊び、材料に見立てる事が出来るようで、Y を真似て２名も動物のご飯を作り始めた。K は「さめさんつくるー！」、S は「きょうりゅう！」「これはごりら！」と言い、石を動物に見立てた後食べさせる動作を見せていた。

＜6 グループ　C、M、R>

　C は楽しみにしていて、興奮したまま、参加。最初は石を触り、「つるつるしている」「冷たい」など、石の感想を聞くと話していた。R は、C の発言を聞き同じようにまねて冷たいと話したり、石をねじるように手でもってちぎるような動きをするなどしていた。C は、感触後、目で石を見て、「ピカチュウみたい」など形の特徴をつかんでイメージを膨らませていた。M は、感想を聞いても笑顔で見つめるか、保育者の話すことをオウム返しするだけだった。しばらくすると、M がお盆を持ち上げて斜めにして石を移動させだす。保育者がその姿を、C、R に言葉で共有すると、二人も真似をしだしていた。

大島保育園

大島第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第二保育園
施設所在地	江東区大島4-1-6-130
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

色

＜テーマの設定理由＞

園には大きなチューブの絵の具しかなく、製作で使う際には保育者が量を考え、
パレットに出してこども達が使用する形であった。絵の具を使用するこども達が色が混ざる
様子を楽しんでいる姿を見て、自分で絵の具を好きなだけパレットに出すことができたら
もっと楽しめるのではないか、新しい発見があるのではないかと考えテーマに繋げた。

２．活動スケジュール

5月1回目4グループ、7月2回目6グループ、9月3回目6グループ、1月4回目クラス全体での
活動

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

素材・道具：1人1セットの絵の具（8色）、画用紙（白、黒、グレー）、筆（大、中、
小）、パレット（3種類）、シート、乾燥棚、筆洗い他

環境：水道近く（保育室もしくはホール）に個人机を人数分つなげてシートを敷き、
画用紙、筆、パレットは自由に選べるよう机上に並べてこども達に取ってもらう
形にした。

大島第二保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

1. 1人ひとつ8色セットの絵の具を用意し、画用紙（白）の枚数制限なく、自由に絵の具を混ぜたり、描くことを楽しむ。
2. 自分で作った色をカードにし、その色にオリジナルの名前を付ける。
3. 画用紙を黒のみにし、1回目と同じように絵を描くことを楽しむ。
4. 色になりきって楽しんだことや気が付いたことを劇にして表現する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・「自由に描けるって楽しい」という声がある。
・友だちのパレットと比べることで、同じ色でもよく見ると少し違うことに気が付いていた。
・白い画用紙に白の絵の具で描いてもあまり見えず、「白って何のためにあるの？」という言葉がある。混ぜることで「かわいい色」を作るために必要だということに気が付く。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・繰り返し絵の具や色に触れた活動を行うことで、色を作ったり、色を調整したりすることが上手になっている。
・周りの友だちを見て、同じ色を作ってみようと試行錯誤したり、どのように色を作ったのか聞いてやってみたり、影響を受けていた。その中で、同じ色を混ぜたのに同じ色にならなかったということもあり、探究活動に繋がっていた。

大島第三保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第三保育園
施設所在地	江東区大島6-1-6-130
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

造形（表現）

＜テーマの設定理由＞

日々の生活や遊びの中で、こどもたちが素材に触れたときに見せる「やってみたい」「なんだろう」「もう一度試したい」という心が動く姿やつぶやきを大切にしている。こうした姿は年齢や個性、文化的背景により異なるものの、共通して“自分なり表現”を生み出していると捉えている。そこで今回のすくわくでは、こどもの気づきや興味を出発点に、光・色・素材の変化を感じながら、自分の方法で試し、発見し、表現できる環境をつくることを目的に、「表現」をテーマとして設定した

２．活動スケジュール

令和7年8月から令和8年2月までの期間に、計10回の活動を実施した（8月2回、9月2回、10月2回、12月2回、2月2回）。
ホールでの光・影あそび、ブラックライト、チョーク粉、保育室での色・絵の具・土粘土の活動を、年齢や興味に合わせて月ごとに組み込み、継続して探究が深まるように計画した

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

光・影遊びのためにプロジェクターやブラックライト、自然物を配置した。ライトは安全のため機器を段ボールでカバーした。
保育室には砂・草木染の染料など色の変化を試せる素材、絵の具・布・多様な筆、土粘土・霧吹き・自然物を準備し、それぞれの場所で自由に選んで試せる環境を整えた。
どの活動も個別・グループで取り組めるようにし、一人ひとりが安心して表現できる場を確保した。

大島第三保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

光・影・色・絵の具・土粘土などの素材に触れ、変化を感じながら表現できる環境を整えた。ホールではプロジェクターやブラックライトで影の動きや色の変化を楽しみ、チョーク粉の色ので色の混ざり具合を探求した。保育室では草木染、絵の具、土粘土を使って手触りや色の違いを試した。一人ひとりが安心して自分のペースで表現を広げられるよう環境を工夫した

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

影の大きさや色の変化に「光った！」「大きくなった！」と驚き、友だちと見せ合いながら何度も試す姿が見られた。

色づくりや草木染では「色が変わった」「においがする」などの気づきを共有し、混ぜ方を自分で選んで楽しんでいた。

土粘土や絵の具では、叩く・こねるなど思い思いの関わり方で変化を楽しみ、保育者が必要に応じてそっと寄り添うことで、言葉や個性の違いに関わらず安心して参加できていた

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

こどもは素材に触れた瞬間の気づきから自分なりの表し方を広げていくこと、また個別活動やコーナー設定を取り入れることで、外国籍児や慎重な子も遠慮せず主体的に参加できることに改めて気づいた。

蛍光カラーの変化を事前に見せるなど、結果の見通しを伝えることで意欲が高まり、遊びが深まることも分かった。

素材の違い（におい・色・手触り）がこどもの探究心を自然に引き出し、試したい方法を自分で選べる環境づくりの重要性を再確認した

大島第四保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第四保育園
施設所在地	江東区大島8-12-20-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

光と色の探求

＜テーマの設定理由＞

昨年度の水族館遠足をきっかけに、子どもたちは海の生き物や水族館の再現遊びに夢中になった。その中で「どうして水族館は暗いのに魚が見えたの？」という疑問が生まれ、今年度はその気づきから“光と色”への探究へと発展した。

２．活動スケジュール

年間13回
自分の色の研究グループ毎４回
自分色の傘研究グループ毎４回
園外保育１回
園外保育で印象に残った物４回

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

大島第四保育園

【準備した素材・道具】
絵具、ジップ袋、スポイト、完成した色水を吊り下げる台
ビニール傘、マジック、セロハン、セロテープ、画用紙、光るクレヨンOHP、ブラックライト
【環境の設定】
光が差し込む場所と、暗い空間の両方を活かせるようコーナーを分けた。
ジップ袋に入れた色水を吊り下げ、光が透けて見える環境を準備したほか、ビニール傘やセロハンを自由に使って色の重なりを試せるスペースを用意した。
また、OHP やブラックライトを使って光の当て方による見え方の違いを楽しめるようにし、子どもたちが自分の気づきを広げられる環境づくりを行った。

大島第四保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・「ビニール傘を使って色や光の世界に触れてみよう」をテーマに、色と光の組み合わせの不思議さに触れる活動を行った。
・「チャック付きポリ袋に自分だけの色を作ろう」では、スポイトで色水を混ぜ、オリジナルカラーを制作した。完成した色水は室内に飾り、日光が当たって反射する様子を観察した。
・色水ボトルやセロファンを使い、光による色の変化や重なりを探る活動を展開した。
・「ビニール傘に色をつけてオリジナルの傘を作ってみよう」では、油性ペンやセロファンで傘をデザインした。
・子どもたちの声を受け、ホールを暗くして懐中電灯で傘に光を当てたり、園庭で日光にかざして反射を楽しんだり、水をかけて変化を確かめたりする体験を取り入れた。
・園外保育として「マクセルアクアパーク品川」を訪れ、光の表現や水中の輝きを観察した。
・帰園後、印象に残った場面を光るクレヨン・黒画用紙を使って描き、ブラックライトで光らせる表現活動につなげた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・「混ぜたら紫になった！」「光が当たるときれい！」など、色や光の変化に気づき、友だちと共有する姿が見られた。
・ビニール傘では「暗くして光を当てたい」「外でもやってみよう」と自分たちで活動を広げていった。
・園庭では、日光や水しぶきの変化に「もっとやりたい！」と興味を深め、試行錯誤を繰り返していた。
・アクアパーク後の表現活動では「イルカが飛び跳ねた時の水しぶきがキラキラしていた」と感じたことを言葉にし、ブラックライトで光る様子に喜び、発表したい気持ちが高まった。

大島第四保育園

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちは、ただ与えられた活動を行うのではなく、光の当て方や水の使い方など、自分たちで“もっとやってみたい”を生み出しながら探究を深めていくことに気づいた。
また、体験したことを言葉にして共有することで、友だちの発見に刺激を受け、活動がさらに広がっていった。
環境の設定や素材の提示の仕方によって、子どもの興味が自然に深まり、主体的な学びが促されることを改めて実感した。

北砂保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	北砂保育園
施設所在地	江東区北砂1-1-4-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

園庭～自然にふれながらやりたいと思ったことを探求できる園庭づくりを目指して～

＜テーマの設定理由＞

・誰もがしたいことを見つけられる→自分で好きなことを選択できる
・自然豊かな園庭→自然物を自由に使える
・みんなが伸び伸び身体を動かすことができる→体を動かせる保障がなされる
＊異年齢が重なって園庭で過ごしてもこの３つが可能であること

２．活動スケジュール

夏：職員アンケートを取り職員から見た理想の園庭像を出す
秋：不足の道具を購入し、環境を整える
　　使い方、片づける場所を確認（倉庫片付け）
　　設定　理想の配置図をクラスごとに提案
　　こどもの遊び、つぶやきを日誌に記録
　　振り返り
　　改善策や次の保育につなげていくために環境を検討

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・大縄用ポール　・外用テーブル（幼児）　・コーナープレート　・バスケットゴール
・マルチ運動遊びセット　・お砂場椅子　・お砂場ローテーブル　・ベンチ6台
・色水カフェ（夏季）　・透明バケツ（夏季）
＊鉄棒、ジャングルジム、サッカーゴール、太鼓橋の設定場所を検討し、移動させ、それに伴い道具の場所も移動させた。また、遊具が取り出しやすいよう倉庫整理も行った。

北砂保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

環境を変え、道具を増やし、保育士が設定や仕掛けをすることでこどもたちがどのように遊び、探求心を膨らませ、遊びが展開していくかを傍で見守り、時に声をかけたり、共感する

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

固定遊具の配置を変えたことで広い空間ができたことでお風呂マットやカラーチェアを使いお家作りや囲われる空間を作りその中でごっこ遊びが展開するようになった。乳児は囲いのおうちにあこがれ「入れて」と友達の遊びに興味を持ち、関わろうとする姿が見られた。

幼児クラスでは雨どいのような道具を使い水や砂を流そうとする。雨どいに砂を埋め、そこに水を流したらどのようになるかを試し、水の力で砂が流れていくことや水が流れた先に水たまりができることから、遊具を流すことも試す。また、角度がつくことで水の流れの速さが変わることに気づくと何で角度をつけるといいのを考え、様々な遊具を持ってきて台にし、角度をつけることを試す。角度をつけることで雨どいが不安定になるため「ここもおさえると倒れにくくなるかもね」などこどもたちの発展する姿に合わせた声かけをしてきた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・ゴザやチェア、テーブルなどの新たな遊具を追加したことで、こども達のイメージが広がり遊び込める姿に繋げられた。
・遊具の出し入れが楽になった。（特に鉄棒下のマット）
・バスケットゴールを新たに設定し、こども達が盛んにボール遊びに取り組み、挑戦し続ける力や友達同士の交流（異年齢）、試行錯誤し考える力、達成感を味わうことができている。
・園庭の配置を変えたことで、全体が見やすくなり、見守りやすくなった。
・季節的に氷など自然物に触れ、考える機会が自然発生的に持つことができた。

小名木川第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小名木川第二保育園
施設所在地	江東区北砂5-20-3-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

感触

＜テーマの設定理由＞

特色でサイエンスプログラムの中で身近な活動の中から（素材・自然・生き物）なぜ？どうして？と子どもたちが感じることを大切にして保育を展開しているため。そして、色々な素材を準備して五感でわくわくする探求ができる体験をたくさんしたい。また、どの年齢でも取り組めるため。

２．活動スケジュール

６月　テーマ決める

７月３回、９月６回、１１月３回、１２月６回、１２月２回、１月３回、３月2回と小グループで４グループを作り実践

月に2回木曜日13時30分～14時30分の時間で行ったクラスから振り返りをした。

２月２６日　全クラスの実践と全職員で振り返りをする。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

小麦粉・絵具・ローラー・筆・紙類・トランポリン、鉄棒、積み木、布、色の砂、色々な素材を使用した。

小名木川第二保育園

4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・粘土の感触　粘土遊びを通して、ちぎったり、伸ばしたりする感触を楽しみました。
・ボディペイント用の「ゆびえのぐ」を使って絵の具の感触遊びをしました。
・寒天の感触　寒天遊びを通して、冷たい感触や切ったりつぶしたりといった感触などを楽しみました。
・トランポリンで飛んでバランス感覚の感触あそびをしました。
・鉄棒でぶら下がりながらの力の感触あそびをしました。
・積み木も素材で積み上げたり並べたりとかたい物や柔らかいもので感触を感じました。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・粘土遊びを通して、ちぎったり、伸ばしたりする感触を楽しみました。触っているうちに形が変わる様子に興味津々のこどもたちです。また、粘土を見慣れないのか、少し緊張する子もいました。
・ボディペイント用の「ゆびえのぐ」を使って絵の具の感触遊びをしました。もったりとした感触に「あれ？いつもの絵の具と違う！」と、目を輝かせるこどもたち。プールで絵の具遊びをする新鮮さもあり、「やっていいの～」とワクワクと大きな模造紙に手形や足形をつけて楽しんでいました。だんだん楽しくなってくると、自分や友だち、保育者の腕や足に絵の具を塗ったり、気づくと顔に絵の具がついていたり…とてもダイナミックに、そしてじっくり絵の具の感触を楽しみました。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

保育士が色々な素材を準備して、こどもが5感を使い感触を感じている姿が、少人数で行うことで一人一人の声を聴きわくわくしている姿を感じられました。また、こども達が体全体がこんなにも楽しいことなのだということを、こども達の姿を見て強く実感しました。こども達が主体となり進めていき、発展していくことは、保育士もいろいろな素材で体験して探求することが必要と感じた。少人数で行うことで保育者から見えているこどもが一人ひとり違った面を見ることができました。肯定的なことばをかけることでのびのびしていることがわかった。保育士がわくわくする気持ちを持つことでこどもとの共感が今以上持てました。

亀高第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀高第二保育園
施設所在地	江東区北砂5-20-10-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

動く

＜テーマの設定理由＞

こどもたちはなぜ動く物へ興味関心を持つのか。
動くことに対するこどものイメージを広げながら、様々な動きを観察したり、身体を動かす、自由に表現することの楽しさを感じる中で、主体的に探究活動を楽しめるようにしていきたいと考えたため。また、園の特色である「体育」の中で３６の動きを意識して活動しているため、より身体を動かす楽しさを感じられるようにしていきたいと考えたため。

２．活動スケジュール

１回目：こどもたちが考える動くモノを言葉で共有する。
２回目：前回言葉で共有したものやその時に感じたことを体で表現する。
３回目：こどもたちが考える動くモノを自由に絵で表現し、どんな物を描いたか言葉で共有する。
４回目：こども自身が動かすことのできる身近なもの（光）を使って自由にイメージし、言葉や動きで共有して遊ぶ。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

第１回：ホワイトボード
第２回：三角コーン、バトン
第３回：ロール紙、模造紙、ダンボール、油性マジック、色鉛筆、クレヨン、養生テープ
第４回：懐中電灯、ランタン、プロジェクター、すずらんテープ、カラーポリ袋、シーツ、生き物フィギュア

亀高第二保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

第１回：自分が考える動くモノを言葉で表現しよう
第２回：自分が考える動くモノを体で表現しよう
第３回：自分が考える動くモノを絵で表現しよう
第４回：自分で動かせるモノで発見したりイメージを共有しよう

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

【第１回】「動くって何？」「動くって見たことある？」という問いに対してこどもたちが自由に意見を出す。結果、130個の動くについて意見が出る。
【第２回】④保育者：「ティラノが大好きな〇〇ちゃんがティラノになってリレーしたいって話してくれているんだけど、みんないいかな？」1番にこだわる児に配慮し、リレーをスタートさせる。「ティラノリレーどうだった？」と感想を聞く。
④こども：リレーという言葉に喜ぶ。保育者の提案に「いいよー」と即答してくる。「ティラノリレー楽しかったー」と興奮した様子で伝える。
【第３回】③保育者：準備が整い、ホールに招待する。体育ベンチに座らせ、【使ったものは元に戻す】【紙の上が滑るから靴下、上履きを脱ぐ】という約束のみ確認する。
③こども：ホールに順番に入ってくるが「わぁ～」とわくわくした表情でホール内を見回す。約束事をしっかり聞く。
④保育者：「Ｍちゃん、Ｓちゃんが描いた海を泳いでいるみたいだね」と声をかける
④こども：壁に海を描いたSの前に馬場がうつ伏せで寝そべり、両脚を滑らせるように開いたり閉じたりしていた。声を掛けられると満面の笑みを浮かべ2人で笑い合う姿もあった。
【第４回】保育者「今日はこの懐中電灯とヘッドライトを用意しました。」と紹介して、こども達に手渡した。好きな方を手に取り、こども達は自由に壁や床に光を当てて動きや大きさの変化、色の違いを観察し始めた。「生きてるみたい」「光の色が変わった」「〇〇ちゃんの小さいね」保育者はこども達の気づきや言葉に共感し、一緒に光の動きなどを観察した。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

＜第１，２回振り返り＞4歳児の語彙数（知識として使用できる単語の総数）が約2000語と増えてきたところでは、こども達の考える『動く』を言葉で知ることができ良かった。こども達が『動く』世界を言葉で表現する中で、こんなことを考えてる、見ているという新たな発見があった。その後、『動く』世界を体で表現したが、それぞれ言葉で共有したものを体現する児が多くいた。友達の動きを真似する姿もあったが、表現することの楽しさを感じとることができ、楽しかったという言葉が多く聞かれたことは良かった。
＜第3回振り返り＞こども達が思い思いの動くを伸び伸びと表現する姿があり、とても楽しんでいる様子が伝わってきた。またこどもの経験を保育者も一緒に経験することで、こども達の表現する『動く』世界を保育者が広げてあげることができた。こどもの動く世界に保育者が出たり入ったり、一緒に楽しむことでその世界がより楽しいものになっていくということにも気付かされた。保育者の存在やかける言葉はこども達にとって重要であると改めて感じた。
＜第４回振り返り＞電気を消したホールというあまり日常で活動しない環境だけでも、こども達の関心は大いに高まることに気づいた。材料や素材を用意しておくことでこども達自身が自発的に関わっていき、「言葉」のやりとりを通してイメージを共有していけること、また、保育者が想像（予測）していないような発想で遊ぶ見立てる力があることを改めて気づくことができた。自分で動かせる身近なものを通して光を取り入れたが、第１回～第３回の動くの活動でイメージを鮮明にしていたことが今回の豊かな発想につながったと感じた。

東砂保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂保育園
施設所在地	江東区東砂2-13-2-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

構造遊び（積み木・木育など）

＜テーマの設定理由＞

令和6年度このテーマですくわく活動を進めてきて、こども達も保育者も積み木を使っての遊びの幅がとても広がり、保育者の想像を超える遊びが展開された。保育者の遊具の設定や環境整備から、こども達がわくわくして遊具を選んだり考えたり主体的に遊ぶ姿が見られたことで、もっとこうしてみたい、こうしたらどんな展開になるのか、こども達がどう遊びを広げていくのかを深く知りたく、同じテーマでもう１年取り組みたいとの声が多かったからです。

２．活動スケジュール

・今年度は、４．５月が５歳　６・７月が４歳というように各クラスが２か月間実施。
　振り返りは午睡時間を使い（ビデオと記録用紙と使用し）、みんなで行う。
・使用する場所（ホール）に棚を設置し使いたい遊具がすぐに手にできるようにする。
・すくわくPTを募集し（今年度は若手３名＋副園長）、記録用紙や進め方、物品購入品のリストなどを作成し、話し合い全体に返していく。
・すくわく活動を実施したら、必ず記録用紙を作成し、クラス内で振り返りを行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・大型積み木
・木製の様々な積み木や人形・車・動物など
・アクリル製の積み木や布・ボールなど
・遊具が自由に出し入れできるようにを棚の設置（遊具を設定）
・毎回ビデオで撮影し振り返りに使用

東砂保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・毎回ホールを使用し実施してきた（理由としてスペースが確保しやすいこと・様々な遊具を設定できること・空間の中での無駄な音ないこと）
・１回４人までの少人数で行う
・その日のテーマに沿って、クラスの担任が遊具の設定や配置を行う（しかしこどもの意欲や主体的な遊び展開によってねらい通りにならなくても可）
・活動した内容は、「すくわく記録用紙」に記入し、クラス内で振り返りを行う。その後活動した週の木曜日（１３：３０～１４：３０午睡時間中）に出来るだけたくさんの職員が参加した中で、振り返りシート（各クラスに事前配布）と実施したビデオを観て振り返りをした。最後がグループ事の出た意見を発表する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・1回のすくわくの取り組みに３～４人と少人数だったことで、遊具を思う存分使用して遊ぶことができた。仲良し同士、あまり関わっていない子同士など様々な要因を考慮したグループ構成をしたことで、遊びがどんどん盛り上がっていったり、会話もたくさん聞かれた。一方では少人数で取り組んでいたが、個が強いグループだと同じ空間の中で個々に遊ぶ姿があり、全く関わりがないまま終わったこともあった。そんな時は保育者が、どのように声掛けしていくか遊具の提供をどう進めていくかにより、こどもの姿も大きく変わっていった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

1回のすくわくの取り組みに３～４人と少人数だったことで、乳児も幼児もいつもはあまり発言しない子もたくさんの会話が聞かれた。またメンバー構成により（普段あまり関わらない子同士や仲良し同士など）こんな遊びが広がった、こんな関わりが生まれたなど保育者の予想意外な場面が多く見られた。保育者はこどもの声や発想に対し「見守る」姿勢を基本としたことで、こどもからの発想や思いを十分引き出していくよう心掛けていくことができた。次年度も少人数で様々な要因を考慮したグループ構成を考え、すくわく活動を進めていくと共に、保育者自身が楽しんでいくこともとても大切なことだと感じた。

東砂第二保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂第二保育園
施設所在地	江東区東砂2-6-4-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

五感（視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚）

＜テーマの設定理由＞

・昨年は『造形』をテーマにすくわくプログラムに取り組んだが、活動を読み取る中で、造形活動の中でも、様々な感覚を感じていることが分かった。職員間で、造形以外の活動にも広げていきたいと考え、今年度のテーマを『五感』とした。
・五感（視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚）から得られる刺激や感覚を、乳幼児期に味わうことにより、好奇心、探求心、様々な物事への興味関心、すくすくワクワクする心を育みたいと考えた。また、遊びを通して、こども達の感じる世界を保育士（大人）も学んでいきたいと考えたため。

２．活動スケジュール

７月～９月
『色水遊び』（１歳・５歳）
『フィンガーペインティング、ボディペインティング』（３歳・４歳・５歳）
『収穫野菜の味比べ』（２歳）
『小麦粉粘土パン作り』（３歳）
『流しそうめん作り』（４歳）
『寒天遊び』（５歳）
１１月～１月
『音楽・リズム・楽器　※講師』（１～５歳）
『全身の動き（サーキット）※講師』（１～５歳）
『表現遊び（バルーン）※講師』（３・４・５歳）
『毛糸遊び』（１歳）
２月
『色・光遊び』（３・５歳）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

東砂第二保育園

【　『活動』（素材・道具）…環境　】
『色水遊び』（赤・青・黄の色水、透明カップ、ペットボトル、バケツ、タライ、）…テラス
『フィンガーペインティング』（ロール紙、古シーツ、絵の具（5色　赤、青、黄、緑、白）、絵の具皿、筆、タライ（手を洗う用）、テーブル、レジャーシート）…室内、ホール
『収穫野菜の味比べ』（収穫したキュウリ、塩もみキュウリとピクルスキュウリ）…室内
『小麦粉粘土パン作り』（小麦粉、赤・青・黄の食紅、水、バケツ、粘土板、三角巾、バンダナ、オーブントースター）
『流しそうめん作り』（雨どい、ホース、水、台、ざる、毛糸の麺、割りばし、皿、製作した薬味、色水で作った麺つゆ）…室内、プール
『寒天遊び』（赤・青・黄の色水、赤・青・黄の寒天、透明カップ、ペットボトル、ビニール袋、スプーン、トレイ、懐中電灯）…室内
『音楽・リズム・楽器　※講師』（楽器、ドングリ）…ホール
『全身の動き（サーキット）※講師』（巧技台、ロープ、トランポリンなど）…ホール
『表現遊び（バルーン）※講師』（バルーン）…ホール
『毛糸遊び』（毛糸、洗面器）…室内
『色・光遊び』（懐中電灯）…室内、ホール

東砂第二保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

『色水遊び』1歳児は年齢に合ったサイズや数を揃えるようにした。５歳児には色彩表を用意し、主体的に色に興味を持てるようにした。
『フィンガーペインティング』３歳は手のひらだけでなく描く紙や布の違いを楽しめるようにした。４歳は友達との関りで発見があるのか握手で色を混ぜる約束をして始めた。５歳は自由に遊べる環境にした。
『収穫野菜の味比べ』収穫したキュウリを２種類の味に調理してもらい食べ比べをした。
『小麦粉粘土パン作り』小麦粉粘土の感触、色の混ざりを楽しみトースターで焼き匂いを嗅いだ。パン屋さんのイメージを膨らませカラスのパン屋さんの絵本からパン作りを楽しんだ。
『流しそうめん作り』こどもの流しそうめんの話題から、イメージで製作、準備を進め再現して遊んでみることにした。
『寒天遊び』寒天遊びを通して指先を使い感触を楽しんだり、色の重なりや組み合わせなど発見を楽しんだ。またカップや袋に寒天や色水を入れて、光を当てて様々な発見を楽しんだ。
『音楽・リズム・楽器　※講師』季節のドングリを使った感触遊びから、音の遊びへと発展。全身を使って質感や音、リズムなどを音楽に合わせて楽しんだ。
『全身の動き（サーキット）※講師』巧技台などを使ってサーキットの環境を作り、全身を使った遊びを展開。こども達の姿に合わせてサーキットの内容も変化させていった。
『表現遊び（バルーン）※講師』友達と力や息を合わせてバルーンを動かし、視覚、聴覚、触覚、全身を使った表現遊びを楽しんだ。
『毛糸遊び』３種類の異なる形状の毛糸に触れて、新しい感触を楽しんだ。また毛糸を玉の状態で目の前に置き、自由に触って動きも楽しめるようにした。
『色・光遊び』新しいクリスタル積み木を使って積み木遊びを楽しんだ。懐中電灯も用意しておくと、以前遊びで使ったことを思い出したこども達が、すぐに光を当てたいと遊びが展開する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

※上記の活動より一部を抜粋
『流しそうめん作り』
・麺づくり、具材づくりと積極的に楽しむ。（具材は完全体を作ってから切る）・あったらいいなを再現しようとする。・お箸がうまく使えずいらいらする子もいた。・小さい子に優しく接したり、麺を流してあげる姿が見られた。・流れてくる麺を一番下で待ち構えてたくさんコップに入れていた。・繰り返し何度も何度も楽しんでいた。
『寒天遊び』
・初めに寒天に触ってみると、「プニプニ」「冷たくて気持ちいい」「なめらか」などの感想が出た。「中はどうなってるの？」という疑問も出たので、糸で切って配り、こども達に実際に感触を味わってもらった。すると「中はツブツブしてる」「ザラザラしてる」など表面との違いにも気が付いていた。
・指先やスプーンで潰して、色の違う寒天や色水と混ぜて遊び始めた。色水だけとは違う、崩した寒天入りの色水にこども達は大興奮で、「見て！こんな色ができた！」「きれい」とお互いに見せ合い楽しんでいた。懐中電灯やランタンも用意しておくと、「照らしたらどうなるかな？」と光を当てる。キラキラと光る寒天色水に大盛り上がりで「宝物だ！」「ダイヤモンドみたい」「海の生き物が作れそうだな」と、言葉で表現したりイメージを広げたりと、思い思いに楽しんでいた。

東砂第二保育園

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

『流しそうめん作り』

マグロ（ツナ）やにんじんなど、まずは本物と同様のものを作成してから、切り刻んでトッピングにしていた。加工されたものではなく、加工することから始めていることに驚いた。プールでは、実際に水を使うことで、本物同様の流しそうめんを行うことができ、子ども達も暑い夏を楽しむことができた。・準備段階から見ていてワクワクしていた。本物のような体験や経験が心に残る遊びとなった。本物の大葉やミョウガ、また、制作した薬味をかいだりする子もいた。玄関の掲示がとても良かった。約1週間かけて行ったことやクラス前の廊下に掲示したことで、親子の会話だけでなく、他クラスとの会話に繋がった。また、全クラスを招いたことで、全員が流しそうめんごっこを体験できた。後日余った具材でピザ作りに発展したのも良かった。

『寒天遊び』

こども達が試行錯誤する様子が多々見られ、集中して遊び込んでいた。４０分ほどの時間だったが、「もっとやりたかった」と遊び足りない様子だった。１回目のこどもの姿から２回目の用意するものを変えたり、こどもが自ら発見したり試したりすることを見守った。自分で発見したり工夫したりする姿が見られ、逞しさを感じた。少人数で、空間を保障できたことも良かった。

全ての活動に総じて、物的、人的環境を整える事が、こどものワクワクに繋がると分かった。また同じ活動でも、年齢に応じた環境設定や保育士の関りが、こどもの興味関心に影響があると分かった。年齢が上がるに連れて、友達と対話しながら一緒に探求する姿が見られ、発見や関心も広がっていた。

東砂第四保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂第四保育園
施設所在地	江東区東砂7-17-35-101
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

・自然

＜テーマの設定理由＞

「アリさんのおうちはどこ？」　「雨って何？」　「冬ってどこから来るの？」
こどもたちの声から、こどもたちの世界を知りたい！という思いでこのテーマを設定した。
大人では当たり前に感じている四季をこどもたちはどのように感じているのかを探究活動を通して学んでいく。

２．活動スケジュール

・各クラス毎月実施し、下記月にて保護者へスケッチブックで周知を行う
1歳：5月、8月、10月、11月
2歳：5月、9月（講師来園）、10月（講師来園）、11月（講師来園）
3歳：5月、8月、10月、11月
4歳：5月、6月、7月、11月、12月（すくわく園外活動）
5歳：5月、７月、10月、12月（すくわく園外活動）
・９月　講師による園内研修実施「すくわくプログラムの基本的な考え方と進め方」
・１月、２月保護者会で年間すくわく活動実施報告をパワーポイントを使用して説明。また全クラス保護者向けに活動報告を掲示する。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙（白・黒）、砂、どんぐり等自然物、絵の具（赤・青・黄色）、筆、机、椅子、巧技台、仕切り板
動的あそびとなる巧技台や静的あそびとして絵の具を机の近くに準備していった。こども達が机で観察を行った際に、周りに目が向けられるように座る位置も考慮していった。

東砂第四保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

1歳：季節ごとの自然物に触れたり、ちぎったり等、感じたままに表現し探求する。
2歳：身近な季節の自然物に触れて探究する。
3歳：年間を通して、身近な自然を通しての「色」「感触」に着目して行った。制作で大きな虹を作ったり、カタツムリやアリなどの飼育をクラスで行った。
4歳：自分だけのすくわくカメラを作成し、散歩先や園庭にて使用。カメラを通して見た景色や、こどもが感じる色を、いろいろな形で表現していった。
5歳：色シートを作成し、自然物の色に着目をして探索を行った。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

＜２歳児クラス＞
形や色の違うどんぐりを集めて、どのようにあそびへと変化させていくのかを探究した。
こどもによって、どんぐりの内側に注目している姿があれば、先端やへそのところ、殻斗にも興味を示す様子が見られたり、最初から、「どんぐり」と名付けている子もいれば、保育士に「これがママで、これがパパ、これが赤ちゃん。」と言って、自分の家族を紹介する子の姿も見られていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

身近な自然物を自分に置き換えて、同じ仕草や動き方を真似たり、どんぐりそのものになりきることがあそびとなっていた。こども一人ひとり、目の前にある自然物に対する感性や着眼点が違うため、少人数における探究の良さを感じた。

南砂第一保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第一保育園
施設所在地	江東区南砂4-4-1-102
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

五感

＜テーマの設定理由＞

・昨年は『自然』がテーマであった。自然の中で様々なことを感じ、気付き、探求心や意欲につながった姿があったので、感じることを大事にしてほしいとの思いから今年度のテーマは『五感』となる

・五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）を使って様々な感覚を感じて、「食育」「表現」「音楽」「体育」などの探求心へ広げていく

２．活動スケジュール

計８回（６月１回・９月２回・１２月3回・１月１回・２月１回）

6月：（4，5歳合同）「視覚・嗅覚・味覚への刺激」

9月：（5歳）「フィンガーペイント」（4歳）「小麦粉粘土」

12月：（幼児・乳児）「すくわく演奏会～楽器に触れてみよう」

（5歳）「手作り楽器作り」

1月：（4歳）「手作り楽器作り」

2月：（全クラス）「リズムトレーニング」

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

南砂第一保育園

【素材や道具】
・調味料（醤油・塩・スティックシュガー・酢・レモン汁・ケチャップ・だし汁・緑茶）・プラカップ８個・スプーン１個・トレイ（各自１枚）・小麦粉　・おけ　・ジップ付き袋
・塩　・油　・ペットボトルに入れた水・ブルーシート　・机　・椅子・模造紙　・筆(太い・細い・平筆)　・T型筆洗　・新聞紙(ビニールシート)・指絵の具(赤・青・黄緑・黄・白)・ミュージックポンプ　・アゴゴウッド　・ドレミパイプ　・ハンドシンバル・マラカス(マラカス・たまごマラカス)　・ギロ・タンドラム・ウッドブロック・大太鼓・中太鼓・鉄琴・木琴・スチームタンドラム・トライアングル・鈴・カスタネット

【環境設定】
・少人数で取り組む
・表現しやすい環境設定（ホールやテラスなども利用した）
・自由に触れることができるような目新しい道具を準備（筆や楽器など）

南砂第一保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

6月：（4，5歳合同）「視覚・嗅覚・味覚への刺激」食育月間にちなんで、食べる意欲につなげるために、様々な調味料などを舐めて味覚五味（塩味・苦味・酸味・甘味・うま味）を感じて、言葉や表情、仕草などで表現してみる
9月：（5歳）「フィンガーペイント」全身と筆を使って自由に表現する。専用の絵の具と大きな模造紙を使って、絵の具の色の混ざり具合や感触を大いに味わいながら表現する。
（4歳）「小麦粉粘土」小麦粉と水を自分で調合しながら様々な段階に感触の違いや嗅覚・視覚を使って感じたことを表現する。後半は袋に詰めた小麦粉粘土を踏んで感触を楽しむ。
12月：「すくわく演奏会～楽器に触れてみよう」（幼児・乳児）職員が様々な楽器を使った演奏会を披露し、その後に触って、音を鳴らしてクラスごとにプチ発表会を行う。
（5歳）「手作り楽器作り」楽器に触れた経験から音への興味が広がり、自ら音を創作、創造する。素材の持つ形の違いや大きさなどから音の違いに気付く。
1月：（4歳）「手作り楽器作り」
2月：（全クラス）「リズムトレーニング」講師を招き、裸足の感覚を大いに味わいながら体を動かすことを楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・味覚の活動では視覚で調味料の名前が分かったが、そのもの自体を食する機会はなかなかなかったようでこどもたちはとても喜んでいた。味に対しての感想より、「おいしい」「すきじゃない」といった感想が多かった。うま味（出汁）では「たこ焼きのにおい」、酸味からは「海苔に合いそう」など味覚からイメージが広がっている様子が伺えた。
・絵の具を使った活動ではいつもと違う雰囲気で期待している子が多かった。大きな模造紙を用意していたが、次第に腕や足に絵の具を塗り「あおむしになったみたい」と言い、あおむしに扮して床を這う姿もみられた。
・小麦粉粘土では「パンのにおいがする」と嗅覚を使った表現が多かった。水分量で触感が異なり、友だち同士で違いを共有して楽しんでいた。活動後、小麦粉粘土でパン作りを楽しみ、実際にトースターで作品を焼き、パンやごっこ遊びへと派生した。
・演奏会では普段触る機会が少ないキーボードなどの楽器に触れ、力加減と音の強弱を感覚に取り入れている姿も見られた。演奏会後は「自分たちで楽器を作ってみたい」との声が上がり、様々な素材（箱などの廃材も含む）を準備することで、音を鳴らしながら工夫して制作していた。使う素材によっての音の変化も感じていた。劇ごっこや行事の中で披露し、見てもらう喜びも感じていた様子。保護者会での披露もあり、すくわくプログラムのアピールにもつながった。

南砂第一保育園

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・最初の活動の最後に五感について知らせた。（味覚は舌、嗅覚は鼻など）普段感じていることが五感を使って感じていることだと知り、こどもたちにとって大きな刺激になった様子。すくわくプログラムの活動の中で経験したことが、普段の保育の中で意識的に感覚を捉えている姿が垣間見られるようになった。例えば給食では「この前すくわくで食べた〇〇の味だね」、「今耳を使って聴いているだね」「足の裏でもやわらかいのがわかる」など体の部位で意識的に感じているようだった。また、様々な音色を知ることで自分でも「音を作る」という創造へと移行していった。1年を通してすくわく活動が日々の保育へ派生していく姿が多く見られ、こどもたちの創造力、探求心に大きくつながっていることが分かった。

南砂第三保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第三保育園
施設所在地	江東区南砂2-3-3-102
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

音を探してみよう

＜テーマの設定理由＞

自園はハーモニーという音楽の特色活動を掲げている。普段から音楽や楽器に触れる機会が多いため、テーマを音にすることで探究活動を深めていけるのではないかと思いテーマの設定を行った。

２．活動スケジュール

今年度は９月～２月までに週１回の計２０回活動を行った。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

楽器、廃材（空箱・ペットボトル・ラップの芯・プラスチック容器など）、鈴、パスタ、米、ボタン、クリップ等。

全体を２Gまたは３Gに分けて机上や床で活動しやすいスペースを設定した。

南砂第三保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

最初は音とは何か？を全体に問い、こどもたちが音と思う音探しを始めた。室内や園庭、散歩先で耳をすませて音を見つけたあとに、音楽講師によるコンサート、楽器づくり、合奏発表会を行った。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

ペットボトルに少し水を入れたもの、半分くらいまで入れたもの、満杯まで入れたものを用意した。量によって音の変化があるのか、どんなことが感じられるかを見たいと思い量に差をつけた。満杯までいれたものをこどもたちが振ってみるが、「なんにも鳴らない！」と気がつき教えてくれる。「本当だ！いっぱい入ってるのに鳴らないね。不思議だね。」とこどもたちが感じたことに共感しながら楽しんでいった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

こどもたちと一緒に音を探し、こどもたちからこの音は別の物の音と似ていることの発見があったり、家庭で自然に音探しをしたという話を聞くことで、生活の中で得た経験が関心の高さに繋がっていることに改めて気づくことができた。また講師にも音をどのように広げていけばよいか一緒に考えてもらうことで、それまでとは違うこどもへのアプローチ方法を行うことができ、自身の保育士の音楽に対する考えも広がったと感じる。

南砂第五保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第五保育園
施設所在地	東京都江東区南砂１2-3-6-103
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

活動①『　土と砂に触れる　』
活動 ②『虫眼鏡を使って何を見てみたい？』
活動③ 『　どっちのピタゴラスで遊びたい？　』
活動 ④『２種のチェーリングどっちが楽しい？』
活動 ⑤『　葉っぱのプールと新聞紙のプール』
活動⑥『布を使って遊ぼう！どの感触の布が楽しい？』

＜テーマの設定理由＞

①土と砂どっちが楽しい？
②何を見てみたい？
③どっちのピタゴラスで遊びたい？
④どっちのチェーリングが楽しい？
⑤どっちのプールが楽しい？
⑥布を使って遊ぼう！どの感触の布が楽しい？

２．活動スケジュール

①7月２日、７月４日、７月９日、８月６日
②１０月６日、１１月５日
③9月１７日、９月１８日
④9月１０日、９月１１日、１２月２２日、１２月２３日
⑤１１月２６日
⑥2月１３日、２月２０日、２月２７日、３月２日

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

①・クリアケース×２　・砂　・土　・砂場遊具　・ビデオカメラ
②・虫眼鏡　　・子たちが園庭で見つけた素材　・観察ボックス・ビデオカメラ
③・ピタゴラス（新品２セット、古いピタゴラス１セット）・ビデオカメラ
④・新しく購入した１連の長細いチェーンリング　・これまで使っていた二連の太くて短いチェーンリング
⑤・ビニールプール×２・新聞紙・落ち葉・ビデオカメラ・ほうき、ちりとり
⑥・サテンやシフォンの大判の布　　・ビデオカメラ

南砂第五保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

①子どもが担任と一緒に園庭に出てくる。設定されたケースに気付いて遊びだす。砂と土の違いに気付くのか、どんな遊び方をするのかを記録していく。
②子どもが園庭に出てくる。設定された観察ボックスで遊びだす。観察ボックスに何を入れて見てみるのか、どんな遊び方をするのかを記録していく。
③子どもがプレイルームに設定した新品のピタゴラスと使い慣れているピタゴラスのどちらを選んで遊ぶのか、どのような遊びをするのかを記録していく。
④保育室に準備されたチェーンリングに気付いて遊びだす。それぞれの違いに気づくのか、どんな遊び方をするのかを記録していく。
⑤子どもがホールに来る。設定された2つのビニールプールの中に何が入っているのかな？と伝えて自由に遊んでね、と遊びをスタートさせる。こどもたちがどちらのプールを選択して遊び始めるか、葉っぱと新聞紙の感触の違いを感じることができるか、どんな遊び方をするのかを記録していく。
⑥子どもが保育室に入ってくる。設定された大判布に気付いて遊びだす。普段よりも大きく鮮やかな色の布を使ってどんな遊び方をするのかを記録していく。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

①土を黒、砂を白と表現する姿がみられた。土を触り「いい感じ！」と普段触っている砂との違いを感じているようであった。土でご飯を作り、上に砂をかけて遊ぶ姿が見られた。土と砂をそれぞれ使い分けているようであった。砂をサラサラと表現していた。
②観察ボックスが何なのかわからない様子であったが、保育士がつかまえたアリを入れて見せるとみんな不思議そうに覗いていた。小石を入れた子どもは拡大された石のゴツゴツを見て面白がっていた。
③新しいピタゴラスはクリアなため、組み立てていると透けて見える。家に見立てたのか人形を持ってきて中に入れ始めた。古いピタゴラスで人形を組み合わせて遊ぶ姿は見られなかった。数が足りなくなると古いものを使っている子もいた。
④今までのチェーリングは太く短く、新しいチェーリングは長くしなやかでスプーンに乗せやすいことから扱いやすいようであった。「ちゅるちゅるみたい」「スプーンで上手にすくえるよ」と話す子もいた。次第にそれぞれのチェーリングの特徴に気づき、太い方は色に合った食べ物に見立て、細い方は麺やジュースなど使い分ける姿が見られた。
⑤・近くにあるプールから入る子、２つのプールの中を確認してから「うーん、どっちで遊ぼうかな？」と考えてから「こっちで遊ぼう」と自分で決めてプールに入る子、様々な選択が見られた。
⑥布を見つけて「なにこれ？！」と興味を示す。布を広げ、シフォンとサテンを見比べたり、頭に被ってみたりする姿があった。サテンの布の方は身にまとってドレスにしたり、両手に持って「ぐるぐる」と振って踊る、箱を包むなどしたりしていた。シフォンの布の方は頭に被り「オバケだぞ～！」とオバケになったり「長い髪の毛！」と言って髪に見立てたりして遊ぶ姿があった。両方の布を使い隠れん坊ごっこをする姿もあった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

南砂第五保育園

①２歳…少人数で行った際に興味を示していた子は、後日園全体におろした際にも土遊びを楽しんでいた。砂と土を色で使い分けたり、泥団子にしてあそぶ姿があった。砂が土と混ざりあうと土が無くなってしまうことに気が付く子もいた。
②２歳…観察ボックスの使い方の理解が難しく、何を入れたら良いのかもよくわからず、すぐにやめてしまう子もいた。砂遊びの道具と認識して砂を入れて遊ぶ子もおり、個々にしっかり使い方を知らせるべきであった。２歳にはこのアイテムは難しいように感じるが、少しずつ自然物の観察の延長で見つけた物を入れて観察を楽しむ姿もあった。
③２歳…クリアな素材でイメージもふくらみ、古いピタゴラスでは見られなかった遊び方を楽しむ姿があった。また、数も多いので足らない、ということもなく、満足いくまで遊ぶことができた。　新しいものは新鮮でこどもたちの目の輝きが違った。
④1歳児…新しい物を出した当初は新しいものを選んで使用していたが、時間が経つとどちらも使うようになり、太い物をごはん、細い物を麺類など、それぞれの特性に合わせて見立てて遊んでいる事わかった。次第に混ぜ合わせて遊ぶ子も出てきて、１歳児の子どもでも違いや特性に気づき使い分けて遊ぶのだと知り驚いた。同じ遊具でも小さな違いが子どもたちのイメージや見立てを広げるのだと感じた。
⑤２歳…前半は葉っぱがまだ柔らかく素足でも感触を楽しめていたようだが、後半は葉っぱが乾燥してきたのか？「痛い」と言う子もいた。靴下をはいて参加した子たちは特に痛がることもなく楽しんでいた。思いのほか大胆に葉っぱや新聞紙をばらまいて思い切り楽しんでいた。遊び終わった後、葉っぱと新聞紙、どっちが楽しかった？と質問をしたら「新聞紙」とこたえる子が多かった。
⑥1歳…おしゃれごっこを楽しむ姿が以前からあり、衣装として使う子もいれば、長い髪の毛としてシュシュと組み合わせて髪に括る子もいた。大判布の特性に気が付き全身を覆って楽しむ姿から、布一つでもサイズや素材、色味などが豊富にある事で子どものイメージが広がり、同時に遊びも広がっていくのだという事がわかった。

城東保育園

令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	城東保育園
施設所在地	江東区南砂7-9-11
法人名	江東区

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

サブテーマ・４歳児…「土」

・5歳児…「流す、流れる」「光と水」

＜テーマの設定理由＞

戸外遊びが好きなこどもたちが様々な遊びの中で「自然」と関わる姿に、深い興味関心を持っているように感じた為。

２．活動スケジュール

合計２４回（内訳８月４回、９月２回、１０月１回、１１月１回、１月８回、２月８回）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

４歳児…黒土・赤土・荒木田土、衣装ケース、砂遊び遊具（ふるい、バケツ、三角こて、砂すくい、シャベル）、給水タンク、透明大型シート、記録用カメラ、三脚、テーブル、ベンチ

５歳児…とい、たらい、ペットボトル、ビー玉、LaQ、木製積み木、水風船、巧技台、バケツ、水、シリコン水風船、毛糸、食品トレイ、牛乳パック、ブルーシート、アクリル水槽（四角・丸）、ライト、ランタン、絵具、筆、紙、スピーカー、マグネットシート、ジョーロ

振り返り…ケーブル、付箋、マイク

城東保育園

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

４歳児…①10月、11月は砂場横に衣装ケースに入った土を設置し、水タンクや玩具も用意した。玩具はこどもの反応や様子に合わせて出し、土の質感の違いを感じながら混ぜたりこねたり、ふるいにかけ楽しんでいた。
②1月、ホールに透明シートを敷き、そこに水を含ませた土を山にして設置した。玩具は使わず素手、素足で感触を楽しんだ。
③2月、園庭に机を設置し、その上に3種（黒土、赤土、荒木田土）の土と、水を含ませた土を山積みにした。玩具はこどもの様子を見て使用し、机上での土の感触や土の違いを探求していた。
5歳児…①8月、9月はといに水を流し、流れる様子を観察した。また素材によって流れが違うことや、といの角度・高さ・水の量で流れ方が違うことを発見した。
②1月、2月は部屋は薄暗くし、水槽やアクリルケースに水や絵の具を入れ、光を当てながら混ぜたり絵を描いたりして観察した。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

4歳児…・土に触れ「こっちは冷たい」「こっちは固い」と温度や固さの違いを感じていた。
・少し水を含んだ土の上を裸足で踏むと「気持ちいい」「むにむにする」の声。しばらく遊ぶと「気持ちいいから寝ちゃった！」と土の上に寝そべっていた。
・土の塊をふるいで削りながら「これは何ですかね？」「固いんですよね」「爆発するんでしょうか？」とこども同士で話しながら削り続けていた。
5歳児…水を流す為に高さや角度を調整しながら繰り返し水を流して試行錯誤していた。素材によって流れる速さや音が違うことにも気づき、より多くの素材を流して楽しんでいた。保育者はこどもの発想や言葉を肯定的に受け止め試したいことの実現を援助した。
・計画の時点では光の屈折や反射を楽しむ活動としていたが、こどもの「絵具を入れたい」という発想から絵具を使用すると、水中での色の混色やライトの色の変化に興味を示す子が多かった。絵具の濃度によって、光の通り方にも変化があることに気づき、2回目は絵具の量をこども自身で調節していた。こども同士、友だちの気づきや発想を認め喜びを共有していた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

少人数での活動では普段と違う表情がたくさん見られた。また、こどもの発想を肯定し、やってみたいことが実現出来たときのこどもの表情はとてもいきいきとしており、こどもの心が動く瞬間や、試行錯誤しながら探求しているこどもの姿を間近で見ることが出来、保育者も気づきの連続となった。